GOOD HOLDINGS

グッドホールディングスグループ

CSR報告書

2016

グッドホールディングスグループ概要

グッドホールディングスグループは、廃棄物処理のさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んで枠にとどまらず、まいります

産業廃棄物処理／飲料系商品リサイクル／排水処理施設等の清掃・管理（swell事業）

株式会社リヴァックス

所 在 地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代 表 者: 代表取締役社長　赤澤 正人
資 本 金: 8,100万円
従業員数: 43名
売 上 高: 19億1,001万円（2016年3月期）
U R L: http://www.revacs.com/
事業内容: 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬／産業廃棄物の中間処理（破砕・乾燥）／飲料系商品のリサイクル／排水処理施設等の清掃・管理

おかたづけサービス／海外リユース

株式会社リリーフ

所 在 地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代 表 者: 代表取締役社長　赤澤 健一
資 本 金: 1,000万円
従業員数: 31名
U R L: https://relief-company.jp/
事業内容: おかたづけサービス（遺品整理、住空間整理）／海外リユース

持株及び資産管理会社

グッドホールディングス株式会社

所 在 地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代 表 者: 代表取締役社長　赤澤 健一
資 本 金: 5,000万円
事業内容: グループ広報及び総合戦略の策定、事業会社の事業推進、経営支援

家庭ごみ・事業ごみの収集

株式会社大協

所 在 地: 兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号
代 表 者: 代表取締役社長　森下 和尚
資 本 金: 600万円
従業員数: 30名
売 上 高: 6億8,734万円（2016年3月期）
U R L: http://www.d-aikyo.co.jp/
事業内容: 一般廃棄物の収集運搬（伊丹市）
産業廃棄物の収集運搬

家庭ごみ・事業ごみの収集

株式会社大栄

所 在 地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代 表 者: 代表取締役社長　寺崎 勝明
資 本 金: 1,000万円
従業員数: 64名
売 上 高: 12億3,962万円（2016年3月期）
U R L: http://daiei.company/
事業内容: 一般廃棄物の収集運搬（西宮市）
産業廃棄物の収集運搬

グリストラップ清掃

株式会社ダイキョウクリーン

所 在 地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代 表 者: 代表取締役社長　森下 和尚
資 本 金: 1,500万円
従業員数: 21名
U R L: http://daikyo-clean.co.jp/
事業内容: グリストラップ清掃

編集方針

2015年4月にホールディングス体制へと移行した翌年の2016年4月には、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大協、株式会社大栄の5社での体制となり、社名もグッドホールディングスへと変わりました。

今年度は、インターンシップ生によるCSR報告書作成を試み、「親しみやすいCSR報告書をつくる」をテーマに、新しい視点やアイデアで、ホールディングス各社を捉えています。

6社でのホールディングス体制での報告書の第一歩となる今回は、各社の取り組みをまとめてステークホルダーの皆様にわかりやすくお伝えすると共に、グループとしての重要課題の設定につなげることを目指しました。なお、本報告書では、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目にそれぞれグッドホールディングスグループに関連のある項目に整理し、「経営（①組織統治、⑤公正な事業慣行）」「環境（④環境）」「人権・労働慣行（②人権、③労働慣行）」「コミュニケーション（⑥消費者課題、⑦コミュニティへの参画及びコミュニティの発展）」の4項目で編集しています。

グッドホールディングスグループのあゆみ

1960(昭35)　(有)大栄衛生(現 大栄)創業
家庭ごみ・事業ごみ収集事業スタート

1974(昭49)　大栄サービス(株)(現 リヴァックス)設立
産業廃棄物処理事業スタート

1976(昭51)　(有)大協工業所(現 大協)設立
家庭ごみ・事業ごみ収集事業スタート

1984(昭59)　処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に移転

1993(平 5)　処理センターの設備拡大

1998(平10)　建設系廃棄物処理事業からの撤退

1999(平11)　同業他社との協働体制構築

2006(平18)　破砕処理施設リニューアル
計量器付き収集車両の導入

2007(平19)　乾燥処理施設完成・バイオマス燃料化事業スタート

2008(平20)　リバース・マネジメントセンター完成
飲料系商品のリサイクル事業スタート

2010(平22)　グリストラップ清掃事業スタート

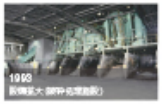
2011(平23)　おかたづけサービス事業スタート

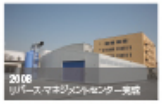
2013(平25)　海外リユース事業スタート

2014(平26)　swell事業（排水処理施設等の清掃・管理）スタート
バイオマスボイラー完成、稼働

2015(平27)　持株会社体制へ移行

2016(平28)　おかたづけサービス事業・リユース事業を分社化し、(株)リリーフを設立
グリストラップ清掃事業を分社化し、(株)ダイキョウクリーンを設立
グループ名称をグッドホールディングスグループに変更





目次

グッドホールディングスグループ概要	02
トップメッセージ	03
事業会社概要	07
2015年度トピックス	15
インターンシップ紹介	16
特集・Child's Dream 訪問記	17
特集・バイオマスボイラーの輪	19
経営	21
ー経営計画	21
ー財務情報	22
ー組織統治	23
ー法令順守	24
ー情報開示・説明責任	25
グッとくるク・ル・マ ー使命感ー	26
環境	27
ー活動の目標と実績	27
ー環境負荷低減の取り組み	28
ーマテリアルバランス	30
ー産業廃棄物処理フロー	31
グッとくるク・ル・マーチームワークー	32
人権・労働慣行	33
ー活動の目標と実績	33
ー労働安全衛生の取り組み	33
ー人事に関する取り組み	35
ー安心して働ける環境づくり	37
コミュニケーション	39
ー活動の目標と実績	39
ー社会貢献活動	39
ーお客様とのコミュニケーション	42
ー消費者課題への取り組み	43
ー苦情・事故	45
資料編　環境パフォーマンスデータ	48
資料編　環境測定結果	49
資料編　過去の苦情・事故	50
資料編　ISO26000 対照表	54

対象組織: グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社大栄、株式会社大協、株式会社ダイキョウクリーン
（本報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としています）

対象期間: 2015年度（2015年4月～2016年3月）※活動内容に一部、2016年度を含む。

発 行 月: 2016年10月（次回:2017年10月予定）

対象分野: 事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン: 社会的責任に関する国際規格「ISO26000」／GRIガイドライン第4版／環境省「環境報告ガイドライン」

ホールディングスがプラットフォームになり、「五方よし」を実現する

2015年4月からホールディングス体制（持株及び資産管理会社1社・事業会社5社）へ移行しました。

2015年度のグッドホールディングスを評価するとすれば、「優に近い良」でした。点数にすると100点満点で85～90点くらいになるでしょう。

業績は事業会社5社の内、2社の利益の伸び率が少し足りませんでしたが、他3社が想定していた以上に業績を伸ばした点や大きな事故がなかった点が良かったと感じています。そして、ホールディングス体制となった目的のひとつである「事業会社を増やす」という点では3社から5社へ成長できたことも評価できる点です。

これからグッドホールディングスは「みんなが良いと感じる会社」を目指していきます。グループ名であるグッドホールディングスの「グッド」にもその意味を込めました。みんなが良いと感じる会社に向かうために「五方よし」を実現することが大事であると考えます。「五方よし」によってまずは社内の幸せを達成する。そして、社会の幸せへと向かわせていくことが企業としても、社員としても、私自身としても最大の目標であると思っています。

グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤健一

ホールディングス体制での社長像

2015年4月からホールディングス体制へと移行しました。

昨年までは3つの事業会社の社長として社員を統率してきましたが、今年は5つの事業会社を取りまとめるホールディングスの社長としてグループを率いる立場となりました。個々の力を最大限に生かし、全体の調和につながるように働きかけることがホールディングス体制での社長の役割の一つだと考えています。

事業会社の社長は、事業分野にて最大のパフォーマンスができるよう、ファシリテートすることが求められます。

ホールディングスの社長は、バランスの調整役だと捉えています。オーケストラでたとえると、指揮者です。社全体では、社員が各楽器、企業方針が楽譜となり、個々のプロフェッショナルがそれぞれ適所に配置され、演奏を始めることになります。演奏中に全体のバランスをみて、調子を整える役割が指揮者です。業務上では、日々変わる社会やお客様の状況をしっかり見ながら、各事業の得意分野を生かしたり、抑えたりすることでバランスをとります。

グッドホールディングスの方向性を示す指揮者として、経営理念かつミッションとして掲げてある「五方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし、手代よし、孫子よし）」を目指し、ビジョンとして掲げている"「五方よし」の事業会社を2026年までに20社創り、100億円企業を目指す"を達成できるよう精進致します。

経営理念・ミッション「五方よし」

行動指針

1. 責任とプライドを持って仕事に取り組む

お客様から報酬をもらっている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果（成果）を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2. 自主性と協調性のバランスをとる

「今、自分が何をすべきかを自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3. 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい（面白い）」という姿勢で取り組む

4. どんな状況にも適応する（適者生存≠弱肉強食）

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、慣習に囚われず、様々あるいは困難な状況でも適応する努力をし続ける

5. 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人びとの期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

コーポレートメッセージ

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事が何であろうと。
どこであろうと。はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、
わずかだけ先に、進ませるものであると信じたい。

捉えよう。そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。
応えよう。わたしたちにしかできない方法で。
超えていこう。今あるわたしたちの姿を。

グローバルな視点でのビジネス

今後、経済成長率の伸びが期待されるASEAN地域にすでに海外リユース事業（海外販路の拡張、次の成長に向けたモデルの検討・実施）で進出しており、カンボジア・タイ・フィリピン・マレーシアの海外市場にビジネス展開をしています。

ここ2、3年の間は、既存事業で収益基盤を支え、さらなる成長を推進することに目標を置いていますが、今後リユース事業を足掛かりとして、本業として行っている廃棄物処理やリサイクル事業を海外進出していくことを目指していきます。

これから新しいビジネス・事業を作る上でも、「社会貢献をすること」が重要だと感じており、「社会問題の事業化」「事業の社会化」をグループとしてのテーマとして掲げています。

「社会問題の事業化」とは、社会問題の解決を事業として担うことにあり、「事業の社会化」とは、事業やビジネスそのものが社会に受け入れられ、ビジネスと社会が同じ方向にベクトルが向くことにあると考えています。

また、ビジネスをする上で「良い社会を作れば、良い市民ができる。良い市民がいれば、良い消費者が生まれる。そこで良い消費者とビジネスができる」と考えています。ビジネスをする際に、ターゲットを広く置いてしてしまいがちですが、それではビジネスは上手くいかないことが多いのです。私たち中小企業は特定のニーズを持つ規模の小さいマーケットで絞る必要があります。自分たちのターゲットにあるお客様から選ばれるように自分たちの仕事に全力を尽くすべきだと考えます。

グローバル視点で環境ビジネスを捉えた時、今の日本はガラパゴス化しつつあります。環境は国の制度の中に組み込まれた1つの問題であるため、他国からは介入しにくい産業であることは間違いありません。そのため、コーポレートメッセージの「捉える、応える、超えていく」にあるように、私たちの視点で、日本の環境問題や新しいビジネスに気づき、我々にしかできない方法で、現状をより良く変えていきたいと考えています。

社員の人材育成に対する想い

人材育成への取り組みとして特に力を入れている2点を紹介します。

1つ目は「社員の新たな成長を意識した人材育成」です。社員を1つの部署に配置することに固執せず、新たな成長を促すことです。彼らには、社会人としてのプロ意識を持ち、新たなステージへ飛躍してもらいたいといつも感じており、その成長を後押しすることが社長の使命です。また、働き手の成長が会社の成長にもつながり、相乗効果が生まれるといったメリットもあると考えています。単に新しい部署へと積極的に異動を促すだけではなく、社員の考え方や性格、人柄を考慮することで、個性を活かした人事配置を行う工夫も取り入れています。

2つ目は「年間100ユニットの研修制度」です。様々な立場の社員が個々の課題に応じた研修を受講しています。

研修は、役職や課題に応じて用意し、活力ある職場づくりの源になっている面もあります。

できるだけ社会情勢に沿った研修や時代を先取りした研修を用意することで、鮮度や即応性を高くし、業務に活用できる実益があるように意識しています。

その成果は、2014年度から2015年度にかけて、売上利益が上昇したことにも表れているとみています。研修を受けた社員の人たちがしっかりと受け止めているおかげだと感じています。

こうして生まれた「人材の多様性」と「社員の真摯さ」が私たちの強みとなっています。

「五方よし」の中でも「手代よし（働く人の幸せ・成長を応援する）」を特に大切な理念として位置付けています。それは、働く人たちが幸せな会社でなければならないと考えているからです。安心して働くことができる社内環境であれば、「幸せ」をもっと確かなものにしたいというモチベーションが生まれます。結果的にその思いが「社会に対して貢献する」方向へ繋がります。

人生と仕事を同じレベルで楽しむ

私は社会で働く上で、「人生と仕事を同じレベルで楽しむ・取り組む」ことが重要なのではないかと考えています。いつでも楽しいことばかりでなく、困難が目の前に立ちはだかる時もあるでしょう。しかし、困難から逃れられないからこそ「どう行動すべきか」を考えるのです。その経験を積み重ねていくうちに、「仕事と人生を楽しむことは一体である」という考え方になりました。

楽しく仕事をしている人であれば、お客様から見ても好印象ですよね。そうすることで幸せをお客様に届けることができます。

また、仕事を楽しくするためには「勇気を持って、自分が本当に幸せになれる道を全力で進む」ことが必要なのではないでしょうか。自分自身の生き方に信念を持って、何事にも挑むことが大切です。

さらに、幸せになる目標にたどり着くには、賛同する協力者がいることも忘れてはなりません。私はグループの将来の目標を掲げていますが、協力してくれている社員の存在があることを常に心に留めています。

次世代へのメッセージ

「考える力を養っていこう」。これを次世代へのメッセージとして伝えたいです。これは、私たちの身近にある物事を深く捉えていこうということです。

世の中には、同じ事象でも視点の違いによって、正反対の見方ができる場面があります。その場合は、片方だけの視点で考えると、課題を見誤ります。両方を見ることで、はじめて課題の本質を知ることができ、真の解決策が生まれます。

このように物事を深く考えることを次世代に人たちには取り組んでもらいたいと思っています。

事業会社概要
株式会社リヴァックス

安心・信頼される廃棄物処理サービスを通じて、お客様の利益に貢献します

産業廃棄物の収集運搬・中間処理

主に製造業で排出される産業廃棄物の「収集運搬」から「積替保管」「中間処理（乾燥・破砕）」「処理先への運搬」まで、一連の業務を担っています。

乾燥処理　有機性廃棄物からバイオマス燃料を製造

保管容積　90.9m³/日（24時間）
許可品目　汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ
設置年月日　2007年（平成19年）5月1日

※バイオマス燃料の熱量は石炭の約3分の2（4,500kcal/kg）。

破砕処理　固形廃棄物の破砕・選別、減容化

保管容積　50t/日（8時間）※授業処理能力：94t/日
許可品目　廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず　他（全8種類）
設置年月日　2008年（平成18年）2月10日

積替保管　一定の量が集まるまで廃棄物を一時的に保管

リバース・マネジメントセンター
保管容積　735m³
許可品目　汚泥、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、動植物性残さ 他（全7種類）
設置年月日　2008年（平成20年）3月11日

破砕棟内の積替保管施設
保管容積　221m³
許可品目　汚泥、廃プラスチック類、動植物性残さ、金属くず 他（全14種類）
設置年月日　2006年（平成18年）2月10日

飲料系商品のリサイクル

賞味期限切れや不良品という理由で廃棄される飲料系廃棄商品はリバース・マネジメントセンターに搬入され、開梱作業をおこなった後、破砕施設で容器と中身の液体を固液分離します。液体は乾燥施設でバイオマス資源に、容器は提携先にてそれぞれ再資源化しています。

排水処理施設等の清掃・管理

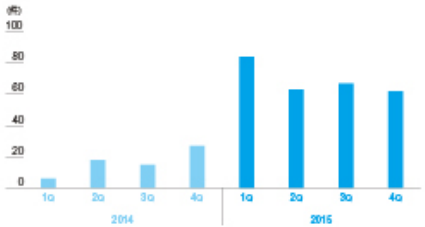
swell
safe and swift

工場排水処理設備の各種槽をはじめ、配管やタンクを清掃し、汚れや詰まりによる機能低下、悪臭を解消します。国内最大級の超強力吸引車を導入し、低コスト・短工期でのサービスを提供しています。

【主なサービス内容】
●排水処理施設の清掃　●配管内の洗浄・調査
●各種タンクの清掃　●工場内側溝・排水会所の清掃

■ 原料受入量・バイオマス燃料製造量

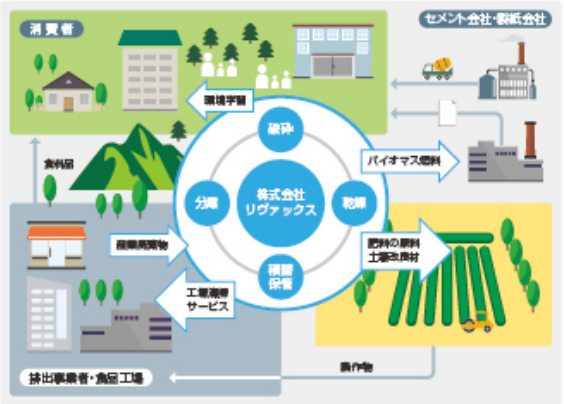
■ swell作業件数（四半期推移）



循環型社会の一翼を担うリヴァックスの役割

リヴァックスでは、食品製造・加工工場などから排出された汚泥や動植物性残さなどを乾燥処理し、バイオマス資源を製造しています。その約半分は、肥料の原料として農家で利用されており、農家でつくられた農作物はやがて食品工場で使われたり、消費者の食卓に届けられます。また、提携先を通じて処理している食品残さなども家畜用飼料となり、こちらも循環を生み出しています。

一方、残りの半分はセメント会社で燃料として使われます。石油や石炭の代わりにボイラーで燃やされ、燃焼後の灰もセメント原料に利用されています。



TOP MESSAGE

2015年度は、目標の売上や利益を達成でき、良い1年だったと言えます。また、2、3年前から手掛けた事業の芽が出始めたことを実感できた年でもあります。中でも、swell事業は順調に伸びており、今後もより一層、清掃作業の短時間化、低コスト化を強みとして拡大していきたいと考えています。

リヴァックスは、産業廃棄物の収集運搬・中間処理を主な事業として取り組んでいます。事業会社の中では「資本集約型産業」と言えます。機械や設備に積極的な投資を行うとともに、社員が安心・安全な職場で働けるよう労働環境を整えています。

お客様や地域の方から直接見えにくい事業が多いので、CSR報告書を通して、より多くの方に知っていただくことで、信頼関係を築いていきたいと考えています。

株式会社リヴァックス　代表取締役社長　赤澤 正人

事業を通じて3Rを推進し、循環型社会におけるライフスタイルを提案します

おかたづけサービス

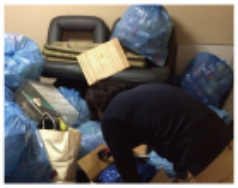
大掛かりなおかたづけを必要とされるお客様に、最適なプランを提案し、住空間づくりのパートナーとしてお手伝いします。

遺品整理サービス

部屋の片付けと、そこに残された遺品を整理します。ハウスクリーニングや消臭・消毒作業など、原状回復業務も請け負います。

住空間整理サービス

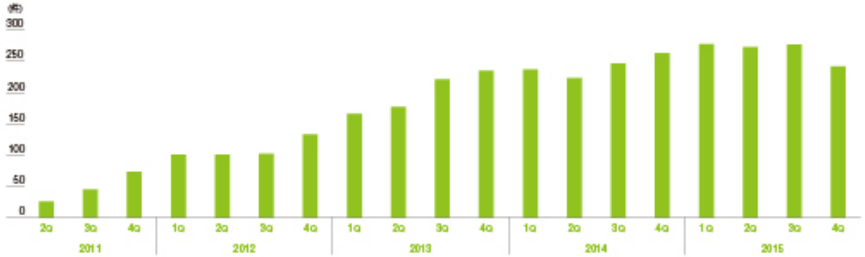
在宅介護の受入れや施設の入居に伴う部屋の整理、また、何らかの事情で部屋もしくは家全体が「ごみ屋敷」化した状態を片付け、不用品を撤去します。



海外リユース

おかたづけサービスで回収した不用品を、地球のどこかで必要としている人の元に届け、再び生かす取り組みです。
タイやカンボジア、フィリピン、マレーシアなど東南アジアを中心に輸出し、現地のリサイクルショップやオークションなどで販売。これにより、リリーフのサービスをご利用いただくお客様のコスト軽減を実現しています。

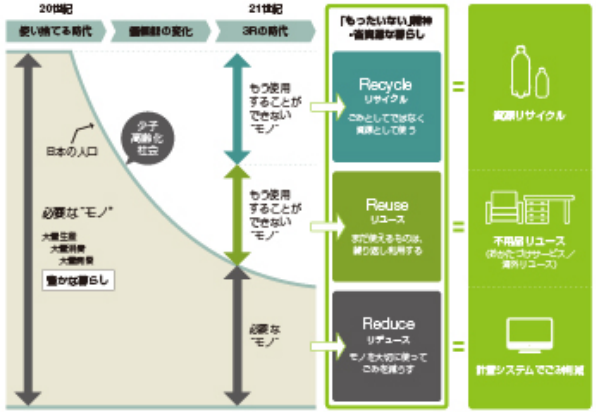
■ おかたづけサービス作業件数(四半期推移)



事業を通じた3R(リユース・リデュース・リサイクル)の取り組み

1960 年以降の高度経済成長期から、日本は大量生産・大量消費型社会で生活は豊かになりましたが、同時に大量の廃棄物や地球温暖化、大気・水質汚染などの環境問題が噴出しました。

2000 年以降、地球にやさしい循環型社会へと移行する中で、リリーフはグループ会社と共に事業を通じて3R を実践しています。持続可能な社会の構築に向け、資源やエネルギーを大切にするライフスタイルを市民の方やお客様に提案・浸透させていくことも使命の一つと考えています。



TOP MESSAGE

2015 年度は、順調に伸びた 1 年でした。遺品整理・おかたづけ事業や海外リユース事業が軌道に乗りつつあり、サービスの拡大・拡充を展開している最中であると言えます。

お客様の困りごとに対して、新しい視点や感覚で課題解決に向かっていくことを信条に、社員一同が躍動しています。

日常の事業活動ばかりでなく、事業者として社会的な責任を果していく必要があり、弊社はお客様への情報の提供やお知らせ、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

「無いほうが良い仕事」の提供を通じて、お客様と社会に貢献し、日本で一番、安心・信頼される「無くてはならない事業者」を目指しています。

2016 年度は分社化したこともあり、事業会社としての自立が求められます。国内・国外問わず広い視野で物事を捉え、それがお客様ひとり一人の困りごとの解決につながるよう、全力で取り組みます。

株式会社リリーフ　代表取締役社長　赤澤 健一

事業会社概要
株式会社ダイキョウクリーン

市民生活と地域事業を支える社会基盤として、なくてはならない企業を目指します

グリストラップ清掃

飲食店や病院、学校施設などの厨房に設置されているグリストラップ(油水分離槽)※や排水管を含む水回りの衛生維持管理に関するさまざまなサービスを提供しています。
回収した汚泥はリヴァックスや提携先の処理施設でリサイクル。専用の高圧洗浄車やポータブル機を保有し、排水管を詰まらせないための定期清掃、万が一のトラブル対応まで、あらゆるケースに応えられる体制を整えています。
※グリストラップ(油水分離槽):下水道に直接、油やごみが流れないようにする装置。

主なサービス内容

・グリストラップ清掃　・排水管清掃　・雑排水槽清掃　・ダクト清掃　・防虫、防鼠

■グリストラップ清掃作業件数(四半期推移)

街や飲食店などのクリーンな環境維持に貢献

飲食店の厨房などに設置されているグリストラップは、汚れを定期的に取り除くことで衛生環境を改善し、水質の汚染を防止します。また、排出される汚泥の量も少なくすることができます。

排水管の高圧洗浄や雑排水槽の清掃などサービスメニューを拡大すると共に、徹底した衛生管理とコンプライアンスを重視した適正処理に重点を置き、お客様に安心いただける体制を構築しています。

TOP MESSAGE

ダイキョウクリーンは、2015 年度よりグループ会社の大協から分社化された新しい事業会社です。主に飲食店や病院、学校に設置されているグリストラップの清掃を行っています。

2015 年度は、関西でのグリストラップ清掃事業が開始から 6 年目を迎え、十分な成果をあげることができました。さらに新規市場開拓を目的に関東へ事業所を設置することができました。関東での営業は想定よりも良いスタートを切ることができ、初年度から 3,000 ～ 4,000 万円の売上を上げることができました。競合が多い市場ですが、2016 年度はさらなる売上増加を目指し、営業に力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

また今後とも、より多くのお客様のご要望・ご期待にお応えするために、社員一同「真摯さ」「向上心」を念頭に、新たな挑戦をしていきたいと考えております。

株式会社ダイキョウクリーン　代表取締役社長　**森下 和尚**

事業会社概要
株式会社大協

お客様の満足度が地域貢献と社員の達成感に

法人向けサービス　産業廃棄物収集運搬

産業廃棄物を収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬いたします。各種収集車両、コンテナを多く保有し、法令遵守で、安全且つ適切なサービスをおこなっています。
また、電子マニフェストを導入しており、産業廃棄物収集運搬の効率化を図っています。
大栄でも同様のサービスを提供しています。

法人向けサービス　一般廃棄物収集運搬

伊丹市内の事業所（飲食店、スーパーマーケット、オフィスなど）約 1,000 件のお客様から排出される事業系一般廃棄物を収集し、市の処理施設に搬入しています。
また、適正処理困難物（市の処理施設で対応できないもの）の分別の徹底を提案し、適正な処理に努めています。
大栄でも同様のサービスを提供しています。

行政向けサービス　家庭ごみ収集運搬

大協では伊丹市から委託を受けて約 34,000 世帯の一般家庭ごみの収集運搬を行っています。行政の仕様書に従い、燃やすごみ、燃やさないごみをはじめ、ビン、ペットボトル、廃プラスチック容器等の分別収集を行い、循環型社会の貢献に努めています。
大栄では西宮市より委託を受けています。

TOP MESSAGE

1962 年の創業より伊丹市を中心に、家庭ごみや飲食店などの事業ごみの収集をおこなっております。その間、地域の皆様が快適に過ごせる生活環境づくり、ごみの適正処理、減量及び有効活用のお手伝いを心がけてまいりました。

2015 年度は、各事業が好調に推移したため、売上は前年度比で増加する結果となり、良い 1 年であったと考えております。

2010 年に大協で生まれたグリストラップ事業も順調に成長し、親元を巣立ちダイキョウクリーンとして分社独立いたしました。これらも大協の社風である「真摯さ」「クリーンさ」「向上心」が大きな力となっていると感じています。

今後とも信頼いただける企業であり続け、お客様や地域社会とともに成長していきたいと考えております。

株式会社大協　代表取締役社長　**森下 和尚**

事業会社概要
株式会社大栄

事業活動を通じて、地域社会の生活環境の保全並びに循環型社会の構築に貢献します

法人向けサービス　廃棄物計量システム

車両にごみを積み込むだけで重量を計測できる「スケールパッカー車」を導入し、各取引先のごみ重量を一元管理しています。
このシステムの導入により、お客様に対してごみ処理量の透明性を確保できると共に、ごみの発生抑制・減量化の提案につなげることができました。数字による「ごみの見える化」は、お客様のごみ減量に対する意識を高め、全体として予想以上の減量に至り成果を上げています。
また、ごみの排出量に応じて収集費用を算出する「従量課金制」を取り入れ、「ごみ減量＝経費削減」を実現しました。
大協でも同様のサービスを提供しています。

個人向けサービス　家庭系粗大ごみ回収

テーブルやキャビネットなど大きい家具を運び出すには、「重すぎる」「玄関が狭い」「階段がある」など様々な問題があります。専門スタッフによる丁寧でスピーディな運び出しにより、それらの問題を解決します。
大協でも同様のサービスを提供しています。

法人向けサービス　事業系粗大ごみ収集

オフィス、工場から出てくる不用品、粗大ごみに関してはその種類も量も多いことがほとんどです。
様々な種類の収集運搬車両をご用意し、お客様に合った回収作業をご提案、家電リサイクル法をはじめ、各基準に基づいて、適正処理をおこないます。
大協でも同様のサービスを提供しています。

TOP MESSAGE

西宮市で 50 年以上にわたり、一般廃棄物の収集運搬を担い、市内の家庭ごみ・事業ごみの収集運搬及び西宮市内外の産業廃棄物等の収集運搬を行っております。

2015 年度は、社員の働きやすい環境を追求したことと、まじめでバイタリティ溢れる社風が業績の向上の要因となったと感じております。グループを通して真面目な社員が多いですが、特に大栄では現場での対応力を支えるアイデアを持った社員が活躍しております。日々の業務課題については社員と一緒になって、意見を出し合い、協力して解決に向かっていくことが多く、人と人の連携が非常に重要であると考えております。

また今後とも、日々の仕事を通して、地域社会・お客様に貢献できる可能性を模索しながら、常に自己革新を続け、皆様に安心・信頼いただける企業であることを目指してまいります。

株式会社大栄　代表取締役社長　**寺崎 春明**

2015年度トピックス

第19回環境コミュニケーション大賞

平成28年2月24日／「リヴァックスグループCSR報告書2015」が第19回環境コミュニケーション大賞（主催：環境省、一般社団法人地球・人間環境フォーラム）の環境報告書部門において、優良賞を受賞いたしました。

<報告書への講評>

グループ企業の構成の中で、廃棄物処理事業の将来性を見据えた3Rの事業展開を行っており、新しい視点での発展が期待されることが、トップのコミットメント及び業務の紹介、有識者ダイアログからうかがうことができる内容となっている。

また、土壌改良材製造工程でのバイオマスボイラー導入によるCO_2削減の取組は、環境のみならず経済・社会的な面でも優れている。ネガティブ情報も多く開示しており、廃棄物処理事業が地域に受け入れられるようコミュニケーションもよく図られていることも高く評価できる。

セーリングチーム世界大会への出場権を獲得

平成27年11月23日／セーリングチームが全日本スナイプ選手権大会において6位入賞を果たし、平成28年6月にブラジルにて開催した世界大会への出場権を獲得しました。

非営利団体「Child's Dream」支援開始

平成27年12月16日／東南アジアを中心に子供たちの自立を支援する「Child's Dream」に、売上金の一部を寄付いたしました。

平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰

平成28年3月9日／平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰（主催：文部科学省）において、「こども農業塾」の活動が評価され、審査委員会奨励賞（中小企業部門）を受賞いたしました。

平成27年度　こども農業塾　開催

第1回:5月23日（土） 開校式・落ち葉集め・土づくりの仕込み・野菜の苗付け・田植え・野菜の収穫

第2回:8月8日（土） 田んぼの草抜きゲーム・夏野菜の収穫・川の生き物ウォッチング

第3回:9月19日（土） 稲刈り・畝肥の切り返し・野菜の収穫・環境パネル展の作品作り

第4回:10月24日（土） さつまいも収穫・野外調理

第5回:12月5日（土） 大根の収穫・土づくり・環境パネル展の作品作り・しめ縄づくり・修了式

独立行政法人国際協力機構（JICA）関西の研修受け入れ

独立行政法人国際協力機構（JICA）関西では、各国の廃棄物に関わる職員の研修をされています。平成27年度は、6月、11月と3月に研修の受け入れに協力しました。

第8次中期経営計画発表会

平成28年3月25日／グッドホールディングスグループの「第8次中期経営計画発表会」を開催しました。

■過去の受賞・顕彰歴

2014年度	「環境　人づくり企業大賞2014」奨励賞 「第18回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門　優良賞
2013年度	「第17回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門　奨励賞
2012年度	「西宮商工会議所創立70周年記念：環境経営特別賞」 「CSR2プロジェクト」コンプライアンス部門　環境省産業廃棄物課長賞 「第16回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門　奨励賞
2011年度	「西宮市優良事業所顕彰～NISHINOMIYA APPLIED PRIZE～」 「第15回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」サステナビリティ報告書賞部門　優良賞
2010年度	「CO2マイナスプロジェクト」生活部門　特別賞
2009年度	「第6回エコプロダクツ大賞」エコサービス部門　エコプロダクツ大賞審査委員長特別賞（奨励賞） 「第13回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」サステナビリティ報告書賞部門　優良賞 「第13回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」環境報告書賞部門　優良賞
2008年度	「第7回日本環境経営大賞」環境経営部門　奨励賞
2007年度	「第11回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門　奨励賞
2006年度	「第10回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門　奨励賞 「第10回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」環境報告書賞部門　中小企業賞 「第4回パートナーシップ大賞」グランプリ（大賞）

インターンシップ紹介　～CSR報告書作成プロジェクト～

活動紹介

集合写真

経営計画発表会

会社見学

会社見学

MTG風景

MTG風景

取材風景

取材風景

インターンシップ生は、「親しみやすいCSR報告書」をテーマに掲げ、CSR報告書をより多くの方々に読んでいただきたい想いで製作していました。コンセプトを自分たちで考え、何回も取材に来てもらい、毎週開催会議を行い、記事を作成しました。

1stプログラム　手作りミニ冊子作成

子どもたちにグッドホールディングスグループの仕事を知ってもらうことをテーマに、働くお父さんお母さんが自分の子どもたちに会社のことを話すためのきっかけとなる絵本を作成しました。

～物語のあらすじ～

小学生のアキラくんには、グッドホールディングスグループで働くお父さんがいます。今度の休みに一緒に遊ぶ約束をしていましたが、急な仕事にために行くことができなくなります。

アキラくんは怒って家を飛び出し、走っているとバナナの皮にすべって転んでしまいました。近くのゴミ箱に捨てると、妖精が現れたのです。妖精はゴミを捨ててくれたことのお礼に、3つの願い事を叶えてくれると言います。半信半疑で1つ目のお願いをします。

「お菓子をいっぱい食べたい！」

すると部屋にたくさんのお菓子が。

願い事が叶ったことにびっくり。そして2つ目のお願いを考えていると、お父さんと遊べなくなったことを思い出し、「お父さんの仕事をなくしてほしい」と言います。

すると、街中にゴミが溢れてしまいました。

あわてて3つ目のお願いをします。

「お父さんの仕事をもとに戻して」

すると街からゴミがなくなりました。

アキラくんはお父さんが街のために役立つ仕事をしていることを誇りに思ったのでした。

インターンシップコーディネート

このインターンシップ活動は、NPO法人コミュニティ事業支援ネットと協働で行いました。インターンシップ生が行うプロジェクトの内容に沿って、週に1回の定例会や取材に関するアテンド等をコーディネートしてもらいました。

インターンを通じて、印象に残ったこと

南　葛之介
（甲南大学　マネジメント創造学部　マネジメント創造学科）

このCSR報告書を通じて、ステークホルダーの皆様が環境について考えていただく機会になればと思います。

本田　志織
（関西学院大学　社会学部　社会学科）

タイへのスタディツアーへ同行させて頂くなど、自分の生活では触れない事を学ばせて頂きました。

宮　歓
（神戸女学院大学　日本語・日本文学専攻　総合文化学科）

メンバーたちと一緒に作業したり、CSR報告書について討論したりと、インターンシップは充実していました。日本で働く思いがより強くなりました。

村上　慶子
（神戸女学院大学　文学部　総合文化学科）

このインターンを通して働くということの意味や大切さを皆さんから学ぶことができました。これから社会人として働いていく中でよい経験となりました。

石屋　康隆
（近畿大学　総合社会学部　総合社会学科　環境系専攻）

活動を通じて「社会で働くということ」を少しでも知るきっかけになったと思います。

柏本　晃馬
（関西学院大学　経済学部　経済学科）

約半年間のインターンシップを通じて、「企業と地域社会との繋がり」や、「環境への取り組み」などに触れることができ、貴重な学びの時間となりました。

水野　綾香
（甲南女子大学　文学部　日本語日本文化学科）

グッドホールディングスグループで働く人々の想いがCSR報告書を手にする方々に伝わるようなものになっていれば嬉しいです。

Child's Dream訪問記

この度、Child's Dream(チャイルド・ドリーム)が行っている活動の一部を、関西学院大学からのインターンシップ生1名とともに訪問いたしました。
難民キャンプの中でも一番大きなMae la campやChild's Dreamが支援を行っている学校、就職支援施設などを主に訪問し、教育を受ける子供たちを見学いたしました。

私たちとChild's Dreamの出会いは2014年のことでした。私たちが事業を行っている国で、とても素晴らしい活動をされている方々がいることを知り、彼らの活動に対する実直で真摯な姿に惹かれ、ささやかながら支援をすることにいたしました。2016年4月には、創設者であるおふたりを日本へお招きし、社員やインターン生に向けた講話会を行いました。今回、その時のお礼も兼ねてタイを訪問することになりました。

Child's Dreamと活動について

1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合(ASEAN)」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子供たちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's Dream」です。
子供たちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。

Reliefが支援する理由

リリーフでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、社会貢献もできる会社を目指しております。
また社員、従業員が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。
おかたづけサービスで回収した不用品(家具、日用品等)を海外で再び生かす取り組みを2013年より海外リユース事業として立ち上げました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、様々な社会問題や経済格差を目の当たりにしました。
そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子供たち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、リリーフの売上の一部を寄付することとしました。

寄付の流れ

おかたづけサービスで回収した不用品は海外でリユースされ、海外で必要とされている方の元でもう一度再利用されます。
リユース品の購入よりも生活資本を整えることを第一と考える発展途上の地域には、適切な住環境や医療、教育のために支援活動をおこなうChild's Dreamへ販売した際の売上の一部を寄付することで利益還元を行っております。

おかたづけで発生した不要品 → 海外へリユース → Child's Dream Kindertraum
売り上げの一部を寄付

本田　志織
特に印象に残ったのは、難民キャンプです。私の日常とは全く別の世界に存在するものでした。これはタイだけではなく世界中で起きている紛争や貧困の問題の一端です。これらの問題は、何となく目にしたりする程度で、その情報が発信されないと「知る事がない=無かった事」になってしまいます。
Child's Dreamが活動をすることによって、より多くの人たちが問題意識を持つものなのだと感じました。
訪問先で出会った人は学べる事自体にとても感激していました。学べる機会がある事が当たり前である事に感謝したいと思います。

Youth connect foundation

職業訓練所の施設です。私たちが訪問した時はちょうど販売員の練習をしていました。使用言語はすべて英語で即戦力を身に付けています。他にもIT関連や料理人になるためのプログラムなどがあるのですが、料理人のプログラムは1週間の予算の中で自分たちが献立を決め材料を調達するといった本格的なものでした。このような実践的なプログラムのおかげで就職後のミスマッチが少なく離職も少ないそうです。

Minmahaw Higher Education Programme

大学進学を目指す生徒が学習する予備校の施設です。生徒の皆さんと座談会を行いました。将来の夢についてお話を伺ったのですが、教師や政治家などそれぞれ夢を持っており大学進学のために一生懸命勉強しているそうです。私が大学生と言うことで、日本の大学や私の専攻についてなど座談会が終わった後も話を聞きに来てくれました。

Mae la camp(PTMJC)

ここでは約3万人が生活しています。この敷地は安全を考え、囲まれていて、自由に出入りはすることはできず、外の人が中に入るには許可が必要だそうです。そのためここで生まれ育った多くの若者は外の世界を知らずに育っています。中に入ると木と葉っぱで出来た家が並びいくつかの家庭では野生の豚や鶏を捕まえて家畜としていました。Child's Dreamなどの団体によって作られた学校がありそこで知識を身に付け、就労IDを取得しキャンプの外で働く生徒もいるそうです。

Child's Dreamの活動実績

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。
その中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。
理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会の繋がりの基盤を構築することができます。また、所得獲得および質の高い雇用機会をうみだすことができます。しかし、多くの子供たちが健康問題を理由に十分な教育を受けることができない現状にあります。そのため、Child's Dreamでは保健プログラムや救命治療を提供し、より多くの子供が教育を受けられることができるよう目指しています。

保　健 Health	基礎教育 Basic Education	高等教育 Higher Education
幼児死亡率を減らし、より多くの子供に教育を授ける。	全ての人々に教育機会を与えて識字率を向上させ、搾取的状況への代替手段を創出します。	適正な所得確保と雇用機会を生み出すため、十分な知識や技術力、コミュニケーション能力の構築を目指します。

バイオマスボイラーの軌

2014年12月に稼働を開始したバイオマスボイラー。導入後は、都市ガス使用量やCO2総排出量が削減され、発電電力の場内利用による電気使用量の増加抑制の効果が生まれている。この環境に優しい施設ができるまでには苦難の道のりがあったことを忘れてはいけない。当時、導入に至るまでの道のりを当事者による対談から明らかにする。

設備改革への想いから生まれた

― バイオマスボイラーを設置したきっかけはなんでしょうか

児島：バイオマスボイラー導入以前、都市ガスを使うボイラーを動かしていたのですが、燃料価格の高騰により効率よく収益を上げることが課題となっていました。そこで、化石燃料を使わないバイオマスボイラーの導入を図ろうと考えました。

― バイオマスボイラーの他にも導入検討された案はあったのですか

赤澤：焼却炉を取り入れる案が先に挙がっていましたが、コストがかかり、その他様々な問題があり…。そんな中で思いついたのがバイオマスボイラーでした。

― 導入に際して、社内で不安の声はありましたか

児島：施設導入により費用がかかってくるため経理部門から「大丈夫ですか?」という声はありましたね。また、燃料である木質チップを安定して調達できるのかといった声も聞かれました。
そのような声には、資金に関しては国からの補助金制度、燃料の調達に関しては取引先との契約書面によって説得をおこないました。
赤澤：社内だけでなく建設会社との値段交渉など社外との交渉でも苦労しましたね。

トラブルニモマケズ…

― 導入後の変化はありましたか

児島：運転・管理方法が変わったため、スタッフに新しい技能が求められるようになりました。そのため、今まで以上にスキル向上を図りました。

― 新しいことをはじめる際に苦労したことはありましたか

児島：スタッフたちが自発的に考えて動けるようにすることですね。彼らには自分で判断して動いてほしいという思いがあるので。
赤澤：2007年に稼働した乾燥プラントも、2～3年は機械のトラブルやオペレーションの構築に苦労しました。機械の故障などの問題が発生すると本当に大変です。売上や利益に響いてくる可能性もありますから。
ただ、トラブルを解決するために試行錯誤することで、知識が蓄えられる等、組織力の強化につながるので前向きに考えるようにしています。
現在はバイオマスボイラーを安定稼働するためにどうすれば良いか、みんなが考えて動いてくれています。

今回お話を伺ったのは

株式会社リヴァックス
代表取締役社長
赤澤 正人さん

株式会社リヴァックス
処理センター　課長
児島 毅さん

環境に優しく、人にも優しく

― 導入したことによるメリットは

児島：燃料を安定的に供給できるようになったことですね。エネルギー使用量やCO_2排出量を大幅に落とせたことも大きかったと思います。これは国をはじめとして社会からも評価されました。バイオマスボイラーを苦労して設置したことが目に見える形で評価されたのでうれしかったですね。
赤澤：あと、以前のボイラーは「燃料を使って燃料をつくっているのはおかしいのでは?」という声がお客様から聞かれることがありましたが、その矛盾もなくなりましたね。

バイオマスボイラー愛

― バイオマスボイラーに対する熱い想いが伝わってきますね

児島：愛着は強いですね。立ち上げ時から携わっているので、僕は離れられないというか、離れたくなくて……。それは、僕自身が今の現場で日々成長を感じられているからだと思います。元々僕は新卒で入社して営業担当だったのですが、理系であったこともあって今の現場に配属になったんですよ。それから、日々課題にぶつかる毎日ですが、できなかった課題ができるようになることを肌で感じることができ、充実した日々を送っています。

― 導入したことによるメリットは

児島：営業時代ももちろん楽しかったです。しかし、今の現場の方がよりやりがいを感じられていると思いますね。これは仕事に対する責任感が大きくなったからではないかな…。バイオマスボイラーという会社が命運をかけて導入した素晴らしい機械・設備をしっかりと動かしていかないといけないという思いですね…。あと、作業員を指導していく立場でもあるので、「人も育てていかないといけない」という思いも責任感となっているのだと思います。
赤澤：元々リヴァックスは収集運搬が中心の会社で設備はあまり力を入れていませんでした。でもバイオマスボイラーをはじめとした、様々な設備を導入していったことで「自分たちもスキルアップしていかないといけない」という情熱も強くなっていったのではないかなと思いますね。

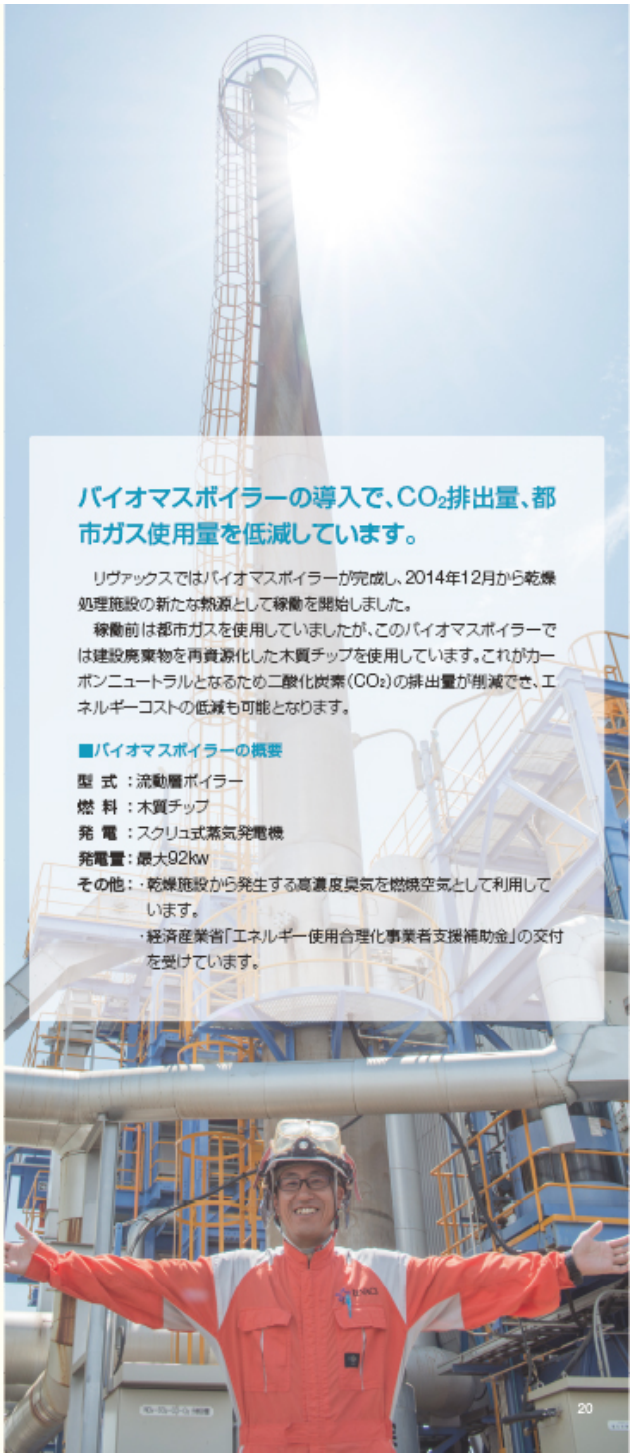
― バイオマスボイラーへの想いは他の誰よりも強いと思われていますか

児島：そうですね。「僕はこのバイオマスボイラーのことだったら誰よりも知ってるよ!」みたいな自負がありますね。技術力だけでなくて「このボイラーができるまでには様々な人々の協力があってできたんだ」ということも知っているので……。いわば、僕の相棒ですね。

インタビューを行った学生の感想

石塚　康隆

今回取材を通じて印象深かったのは「バイオマスボイラーに対する熱い想い」でした。バイオマスボイラー導入前、導入後の様々な困難にも負けずに乗り越えていく姿勢に熱い想いを感じました。このような苦労があったからこそ、社員の方々がバイオマスボイラーに対して愛着や誇りを持って作業をされているのだと思いました。技術力だけに目がいきがちなバイオマスボイラーを「人」を視点として見ることにより、新たな発見が生まれた取材となったように思います。



バイオマスボイラーの導入で、CO_2排出量、都市ガス使用量を低減しています。

リヴァックスではバイオマスボイラーが完成し、2014年12月から乾燥処理施設の新たな熱源として稼働を開始しました。

稼働前は都市ガスを使用していましたが、このバイオマスボイラーでは建設廃棄物を再資源化した木質チップを使用しています。これがカーボンニュートラルとなるため二酸化炭素（CO_2）の排出量が削減でき、エネルギーコストの低減も可能となります。

■バイオマスボイラーの概要

型　式：流動層ボイラー
燃　料：木質チップ
発　電：スクリュ式蒸気発電機
発電量：最大92kw
その他：・乾燥施設から発生する高濃度臭気を燃焼空気として利用しています。
・経済産業省「エネルギー使用合理化事業者支援補助金」の交付を受けています。

さまざまな変化に迅速に対応し、経済と社会の両面からグループ全体の発展を追求します

経営計画

中期経営計画の策定

グループ横断的な経営戦略を策定し、各社・各部門の施策に反映しています

グッドホールディングスグループでは、経営理念及びミッション、ビジョンの実現を目指し、3ヶ年毎に中期経営計画を策定しています。弊社を取り巻く外部環境や内部環境を考慮し、中長期的な視点で戦略を考え、各社・各部門の施策に反映しています。

第7次中期経営計画の最終年度である2015年度の主な活動は次のとおりです。第8次中期経営計画では、既存の廃棄物処理事業を収益基盤としつつ、2011年以降の新規事業を成長エンジンと位置付け、グループ全体でさらなる成長を目指していきます。

第7次中期経営計画 (2013~2015年度)基本戦略	2015年度の活動実績	第8次中期経営計画 (2016~2018年度)基本戦略
ホールディングス全体		
●ホールディングス体制への移行 ●安心・信頼を維持する活動の推進 ●最適な人的資源管理	●第8次中期経営計画の策定 ●コーチングを取り入れた階層別・職層別の人材育成 ●グループでの「CSR報告書」発行	●人的資源管理：働きやすい労働環境作り、人材育成及びスキル向上、新卒・中途採用による人材確保 ●物的資源管理：事業拠点・用地の確保、設備計画 ●資金調達：資金調達の最適化 ●ブランドマネジメント：CSR推進、広報・IRの充実、C調査の検討・実施
リヴァックス		
●高騰するエネルギーコストへの対応 ●新規事業の開拓 ●生産性の向上(営業効率・運搬効率・処理効率)	●バイオマスボイラーの安定稼働 ●新規事業(swell)の拡大	●強みがきくサービスと特定市場へのリソース集中 ●次期プラントの検討・準備
大栄・リリーフ		
●新規事業の採算性確保 ●リユース事業の拡大 ●収集運搬業務の生産性向上	●新規事業(おかたづけサービス)のフランチャイズ展開 ●新規事業(リユース事業)の仕入先および販路の拡充	【大栄】 ●収益安定化のための打ち手検討・実施 【リリーフ】 ●おかたづけ事業：コスト効率の向上、関東エリアでの営業強化による作業件数の増加、フランチャイズによる全国展開 ●リユース事業：海外販路の拡張、次の成長に向けたモデルの検討・実施
大協・ダイキョウクリーン		
●新規事業の採算性確保 ●収集運搬業務の生産性向上	●新規事業(グリストラップ清掃)の関東エリア進出	【大協】 ●収益安定化のための打ち手検討・実施 【ダイキョウクリーン】 ●営業強化による作業件数の獲得 ●外注作業の内製化による差別化の強化

財務情報

2015年度の業績総括

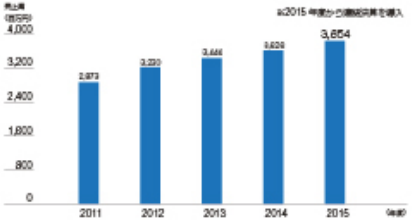
グループ全体で増収・増益となりました

2015年度のグループ全体の売上高は38億54百万円で、前年度に比べて2億27百万円(6.3%)の増収、営業利益は2億74百万円で前年度に比べて94百万円(64.3%)の増益となりました。既存の廃棄物処理事業が堅調に推移すると共に、すべての新規事業※が前年度を上回る業績を上げました。

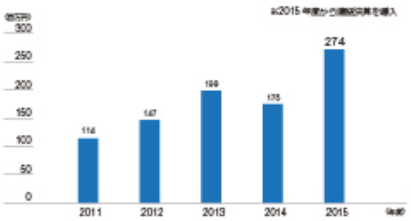
リヴァックスにおいては清掃事業(swell)が大きく伸び、前年度比78百万円(4.3%)増収の19億10百万円、57百万円(91.3%)の増益でした。大栄／リリーフにおいては、おかたづけ事業のフランチャイズ展開やリユース事業の販路確立により、前年度比50百万円(4.3%)増収の12億39百万円、92百万円(179.5%)の増益でした。大協／ダイキョウクリーンにおいては、関東地域に進出したグリストラップ清掃が好調で、前年度比81百万円(13.4%)増収の6億87百万円、前年度比8百万円(14.0%)の増益でした。

※2011年度以降にスタートした事業
リヴァックス：排水処理施設等の清掃・管理
リリーフ：遺品整理、海外へのリユース品の販売
ダイキョウクリーン：飲食店等のグリストラップ清掃

■グループ売上高

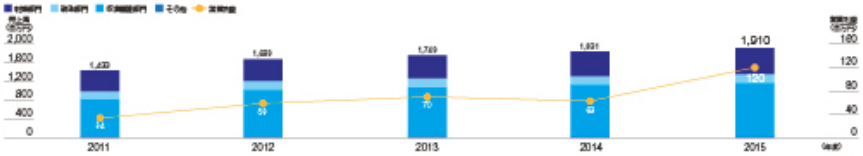


■グループ営業利益

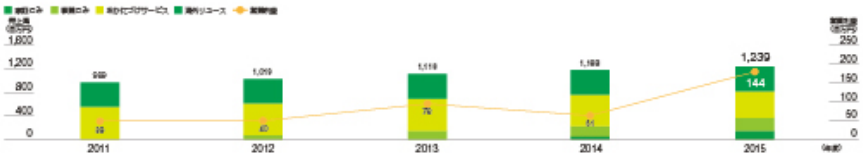


■売上高／営業利益

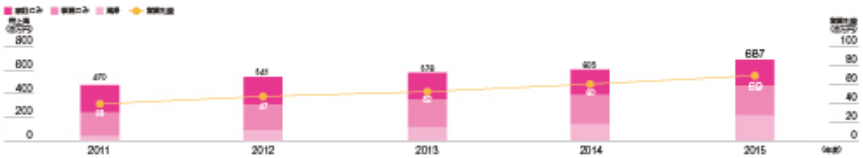
リヴァックス



リリーフ



大協



組織統治

経営管理体制

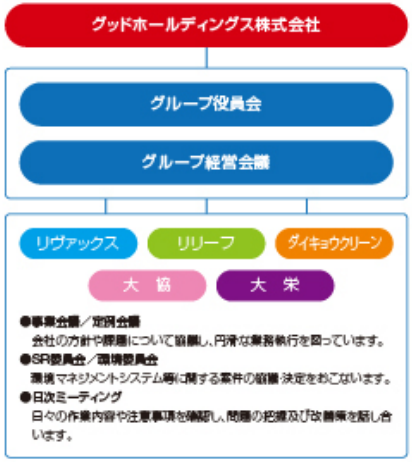
「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業及び経営に努めています。

月に一度開催するグループ経営会議は、係長職以上の役職者で構成され、各社の収支実績や主要施策などを報告し、それらを受けて事業計画の状況確認及び対応策を協議します。また、営業活動の進捗状況や成功事例、効果的な販売促進などに関する情報を共有しています。

お互いの良い点や問題点を認識し参考にすることによって、活動の見直しや改善提案を図る体制を構築しています。

■経営管理体制図



マネジメントシステムの運用

環境、労働安全衛生の各種マネジメントシステムを活用しています

グループの事業が環境に直結しているため、環境マネジメントシステムの認証を取得しています。リヴァックスと大協は「ISO14001」、大栄は「エコアクション21」のマネジメントシステム規格に基づいて構築したシステムを運用しています。

これらシステムの推進は、各社に設置した事務局が管轄しています。それぞれ年間プログラムを策定(Plan)、運用し(Do)、毎月の委員会や内部監査、外部監査でその運用が適切におこなわれているかを確認(Check)します。年度末には1年間の活動を総括し、次年度に向けて見直し(Action)をおこないます。このPDCAサイクルを通じて、マネジメントシステムの継続的な改善を図っています。

処理施設を保有するリヴァックスは、災害・事故は最大の環境破壊であるという考えのもと、2008年に「OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)」とISO14001の統合認証を取得しました。

内部監査・外部監査

内部監査に社外専門家の意見も取り入れています

マネジメントシステムを運用する中で、その実効性とパフォーマンスを点検するため、内部監査及び外部監査を毎年実施しています。

社内で実施する内部監査については、客観的視点を取り入れるため、環境審査の専門家である笹徹氏に内部監査員としてメンバーに加わっていただいています。

トップパトロール

リヴァックス　リリーフ　大 栄　ダイキョウクリーン

社長自らがマネジメントシステムの運用状況を巡視しています

リヴァックスでは、マネジメントシステムの運用事項として、社長パトロールを毎月 1 回おこなっています。手順が正しく運用されているか、整理整頓ができているか等をチェックし、記録として残しています。パトロールは毎月抜き打ちでおこなわれ、2015 年度はアドバイスも含めて 93 件の指摘がありました。

また、リヴァックスと大栄、リリーフ、ダイキョウクリーンでは、グッドホールディングス代表及び役員によるパトロールもおこなっています。

個人情報の徹底管理　リリーフ

プライバシーマークを取得し、情報セキュリティを強化しています

おかたづけサービス等においてお客様の個人情報を取り扱うリリーフでは、プライバシーマークを取得し、情報管理を徹底しています。

個人情報の取り扱い等について定めた規程及び方針を制定し、個人情報の利用目的や情報漏えいのリスクとあわせて、年 1 回、社員教育を実施しています。

法令順守

法令順守状況

2015年度も重大な違反はありませんでした

事業会社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正におこなわれているかなどを、適宜確認しています。

2015 年度も前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

■事業に関する主な法令(抜粋)

法令	名 称
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と看板の掲げ付け等
大気汚染防止法	NOx、ばいじん等の排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準等
騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検及び整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任等
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の指導、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施等
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検等
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検等
西宮市との環境保全協定	大気、悪臭等の測定方法や回数等

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

グッドホールディングスグループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、順守評価記録で管理しています。この順守評価記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価し、万一、違反が発見されたときは是正処置をおこなう手順を確立しています。

事業に関わる法改正については、当該記録項目を改訂すると共に、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

順守評価記録

情報開示・説明責任

CSR報告書／環境報告書の発行

コミュニケーションツールとして、各社で活用しています

廃棄物処理事業そのものや弊社グループの取り組みを広く知っていただきたいとの想いで、リヴァックスは2002年度から、大栄と大協は2008年度から報告書を発行しました。それから毎年社員の手で作成し、各社とも版を重ねるごとに充実したものとなりました。

この度、ホールディングス体制への移行を機に、報告書についても、グループで統括することとなりました。その第1回目となる「リヴァックスグループCSR報告書2015」が「第19回環境コミュニケーション大賞」の優良賞を受賞しました。今後もステークホルダーの皆様と私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールの一つとして、引き続きその発展に努めていきます。

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、事業会社ごとに毎月1回おこなっています。この業績報告会は、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象にしており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。

会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっています。

産廃情報ネットでの情報開示

リヴァックス　大 栄　大 協

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011 年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度※」が創設されました。各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」は、ここに情報を掲載すると新制度で求められる事業の透明性にかかわる基準に適合するように構築されており、許可内容や財務諸表などの情報を同サイトで公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5 つの基準（①実績と違法性、②事業の透明性、③環境配慮の取組、④電子マニフェスト、⑤財務体質の健全性）すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

産廃情報ネット
http://www.sanpainet.or.jp/

経営計画発表会

全従業員で会社の方針や目標を共有しています

2016 年 3 月に経営計画発表会を開催、約 170 名が集いました。2016 年度は 3 ヶ年毎に策定している第 8 次中期経営計画の 1 年目ということで、各社長が基本戦略や 2018 年度に向けた目標、従業員へのメッセージを述べました。

従業員がトップの考えや全体の目標を共有するだけでなく、他の事業会社の従業員と交流する場にもなりました。

グッとくるク・ル・マ
―使命感―

グッドホールディングスグループでは、さまざまな車両が活躍している。
その車両を動かすのは、もちろん人だ。
日々、一生懸命に仕事に取り組む姿の内なる心には、熱い気持ちがあった。
ここではswell事業とGTバスターズで運転する方々の想いを語ってもらった。

加久 勝樹((株)ダイキョウクリーン　業務課)
福 英久((株)ダイキョウクリーン　業務課)

お客様に喜んでもらうために。

私たちの仕事は、絶対に他社には負けることはないと自信を持っています。

グリストラップの清掃は、調理場のある施設が対象になっていて主に飲食店や大型ショッピングモールで行います。私たちが清掃を行えば、グリストラップを新品のようにリセットすることを目指しており、他社ではありえない徹底した清掃を行っています。さらに、お客様に対して日頃のメンテナンス方法や配管の状況などをお伝えするので、コミュニケーションの機会がたくさんあります。その中で、「ありがとう」と喜んでもらえることが一番の幸せです。

GTバスターズとは

グリストラップ(油水分離槽)や排水管を含む水回りの衛生維持管理に関するさまざまなサービスを提供しています。回収した汚泥はリヴァックスや提携先の処理施設でリサイクル。専用の高圧洗浄車やポータブル機を保有し、排水管を詰まらせないための定期清掃、万が一のトラブル対応まで、あらゆるケースに応えられる体制を整えています。

<主なサービス内容>
・グリストラップ清掃・排水管清掃・雑排水槽清掃・ダクト清掃・防虫、防鼠

日本最大級の風量140m³/minを誇る超強力吸引車「swell」は株式会社リヴァックスが保有する車両で日本に3台しかない貴重な存在です。工場の環境インフラ清掃に特化したサービスで、工場排水処理設備の各種槽や配管やタンク等の清掃を、他社にない高機能な車両により低コスト短工期に作業することができます。

小倉 治二((株)リヴァックス　業務課 課長)
前迫 健一((株)リヴァックス　業務課)

safty(セーフティ)&well(ウェル)=swell

超強力吸引車は、従来の吸引車の3.5倍の吸引力を持っており、高低差100mまでの作業が可能になりました。一方で、凄まじい吸引力で堆積物を回収するため、事故などの危険性も潜んでおり安全管理を徹底することが非常に重要になっています。ホースを操り作業を行う者と吸引車の側で作業を監視する者に分かれ、危険があれば直ちに吸引を停止し、安全を確保できる体制をとっています。また、作業を実施するまでには、綿密な準備が必要となります。

営業マンによるお客様との打ち合わせや作業員の指示書など、多くのプロフェッショナルが集結し、超強力吸引車での作業が実現しているのです。

さらに、回収した有機性汚泥は乾燥処理をすることでバイオマス資源として再生することができます。そのため、私たちはswellの作業では、廃棄物を循環型エネルギー源として捉えており、持続可能な社会への一端を担っていることを誇りに思っています。

循環型社会の一翼を担う企業として
環境に配慮した事業活動に努めています

■活動の目標と実績

活動テーマ	Plan 2015年度目標	Do 2015年度実績	Check 結果	Action 2016年度目標
リヴァックス				
処理・運搬における エネルギー使用量削減 (原単位あたり)	電気:88.5kWh/t以下	→ 94.99kWh/t	×	電気:94.03kWh/t以下
	燃費:3.89km/l以上	→ 3.90km/l	○	燃費:3.90km/l以上
オフィスにおける エネルギー使用量削減	電気:18,713kWh以下[※1]	→ 17,983kWh	○	電気:18,168kWh以下
	燃費:17.97km/l以上	→ 19.36km/l	○	燃費:19.36km/l以上
安心・信頼される 廃棄物処理サービスの 追求	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ	→ 苦情件数0件	○	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ
	悪臭・排水処理施設の自主基準値順守	→ 自主基準値の順守	○	悪臭・排水処理施設の自主基準値順守
	お客様への情報発信			
	- メールマガジンの発行:12回	→ 12回発行	○	メールマガジンの発行:12回
	- セミナーの開催:2回	→ 2回実施	○	セミナーの開催:3回
大　智				
エネルギー使用量削減	電気(1時間あたり):6.83kWh以下	→ 5.99kWh	○	電気(年間):29,633kWh以下
	ガソリン使用量の削減[※2]	→ 8,477l	—	ガソリン使用量の削減[※2]
	都市ガス使用量の削減[※2]	→ 336.3㎥	—	都市ガス使用量の削減[※2]
効率的な資源の使用	燃費の維持			燃費の維持[※3]
	第一事業部(廃棄物処理):3.13km/l以上	→ 3.02km/l	×	大型車2.64km/l以上 小型車3.35km/l以上 コンテナ車4.22km/l以上 平ボディ車5.6km/l以上
	- 第二事業部(グリストラップ清掃):			
	大型車:4.34km/l以上	→ 4.61km/l	○	—[※3]
	小型車:5.94km/l以上	→ 5.83km/l	×	—[※3]
	高圧車:5.13km/l以上	→ 4.98km/l	×	—[※3]
環境負荷の低減	水の使用量削減[※2]	→ 1,563㎥	—	水の使用量削減[※2]
	紙の使用量削減[※2]	→ 291.3kg	—	紙の使用量削減[※2]
	事務所の廃棄物減量化[※2]	→ 520kg	—	事務所の廃棄物減量化[※2]
大　栄				
エネルギー使用量削減	電気:40,750kWh以下	→ 67,977kWh	×	電気(1時間あたり):4.52kWh以下
効率的な資源の使用	燃費の維持			
	- ガソリン:13.6km/l以上	→ 13.8km/l	○	ガソリン:13.6km/l以上
	- 軽油:2.61km/l以上	→ 3.09km/l	○	軽油:3.09km/l以上
	- 天然ガス:4.37km/Nm³以上	→ 5.28km/Nm³	○	天然ガス:5.28km/Nm³以上
環境負荷の低減	水使用量:2,483㎥以下	→ 2,236㎥	○	水の使用量:2,236㎥以下
	事務所の廃棄物排出量:695.5kg以下	→ 761kg	×	事務所内の廃棄物排出量:380kg以下
	CO_2排出量:765,742kg-CO_2	→ 677,411kg-CO_2	×	CO_2排出量:677,411kg-CO_2
	グリーン購入の推進	→ コピー用紙など対象品目の実施率:100%	○	継続的な実施

※1　2015年3月の事務所移転に伴い、排出設備の対象を旧東オフィスに限定しました。
※2　電気及び軽油を除く使用量については、排出可能設備の上限に達したため、排出設備数を限定しています。
※3　ダイキョウクリーンへの業務移管に伴い対象車輌から外しました。

環境負荷低減の取り組み

産業廃棄物のリサイクル率 リヴァックス

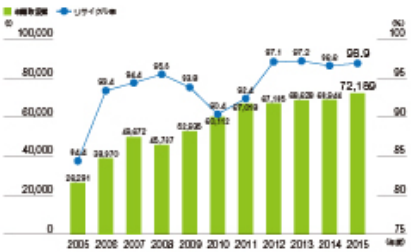
90%を超えるリサイクル率を維持しています

リヴァックスにおける2015年度の産業廃棄物取扱量とリサイクル率は右のグラフのとおりです。破砕施設がリニューアルした2006年、乾燥施設を設置した2007年より90%を超えるリサイクル率を保っています。

限りある物質資源の有効活用のため、また、貴重な産業資源である埋立処分地の延命のため、そして、産業廃棄物のリサイクルに取り組むお客様のご要望にお応えするためにも、自社内での選別や提携先との連携をさらに推進してまいります。

※ リサイクル率は、年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表す。

■リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



処理センターのエネルギー使用量

リヴァックス

できる限り省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター(破砕・乾燥施設)では、電気・工業用水・都市ガスのエネルギーを使用しています。

2015年度の電気使用量は3,423,488kWhでした。デマンド監視装置で需要電力を把握し、適切に管理することにより使用電力の抑制に努めています。

その他、2015年度の工業用水使用量は58,589㎥、都市ガス使用量は30,909㎥でした(P.48参照)。

■処理センターの電気使用量

■処理センターの都市ガス使用量

悪臭防止対策 リヴァックス

各種対策で、規制値を順守しています

リヴァックスでは、廃棄物から発生する悪臭の防止対策を各所で講じています。破砕施設には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置し、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付けて、廃棄物の搬入出時以外は閉めています。

乾燥施設から発生する高濃度臭気は、バイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭をおこない、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置し、臭気を処理しています。

西宮市との環境保全協定に基づきおこなっている臭気測定の結果は、2015年度もすべて規制値内でした(P.49参照)。

環境負荷低減の取り組み

廃棄物の漏洩・流出防止対策 リヴァックス

水密コンテナを使用するなど、漏洩・流出防止を徹底しています

リヴァックスの破砕棟の床面は処理をする廃棄物が漏洩しないように、すべてのコンクリートの上に鉄板を敷いています。また、天災などにより廃棄物が流出するおそれが生じた場合に備えて、下水排水出口を塞ぐ土嚢を常設しています。

さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には、運搬中などに漏洩しないようゴムパッキンのついた水密コンテナを使用しています。パッキン等の消耗品は定期的に点検し、劣化する前に取り換えています。

株式会社リヴァックス　破砕課　森谷　幸雄

破砕課では、漏洩・流出・臭気・飛散を常に注意しながら収集運搬しています。漏洩・流出に対しては、ゴムパッキンのついた専用コンテナを使用しています。廃棄物の積載前には、コンテナの穴やゴムパッキンを確認し、積載後には、パッキン付近から漏洩・流出が無いかを確認してから運搬をしています。臭気・飛散対策は、トラックシートまたはコンテナ付属の蓋を閉めるようにしています。一番大切なのは、お客様のご理解の上で安全な収集運搬を行うことだと考えています。

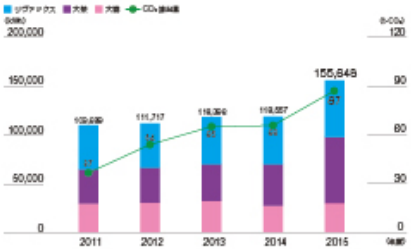
オフィスの電気使用量

照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

2015 年度のオフィスでの電気使用量は 155,628kWh で、前年度より 31%増加しました。オフィスでは、自然光の活用による照明点灯時間の短縮や、空調の温度管理（冷房 28 度以上、暖房 22 度以下）などによる省エネルギー活動を実施しています。

約 60%増となった大栄については、社屋の移転に伴いスペースが広がり、部屋数も増えたことにより、電気やエアコンの使用量が大幅に増えたものと考えています。

■オフィスの電気使用量



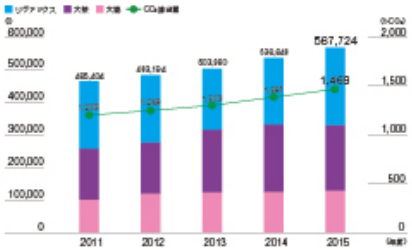
軽油使用量

エコドライブに努めています

廃棄物の収集運搬で使用する各車両をはじめ、場内で利用するフォークリフト、ショベルなどの燃料に軽油を使用します。燃費効率向上のため、ドライバーの意識を高めエコドライブの徹底や、定期点検を実施しています。

2015 年度の軽油使用量は 567,724l で、前年度より 5.8% 増加しました。これは、全事業会社とも作業件数が増え、走行距離が増加したためです。

■軽油使用量



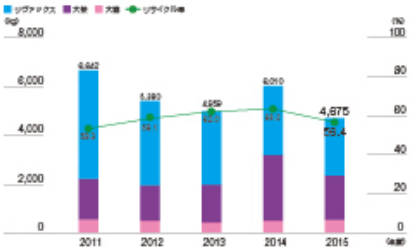
オフィスのごみ排出量

排出量は前年度から約20%減少しました

オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。

2015年度のオフィスからの総排出量は4,675kg、リサイクル率は56.4%でした。排出量は約20%減少しましたが、リサイクル率は前年度を下回りました。

■オフィスのごみ排出量



水質汚濁防止対策 リヴァックス

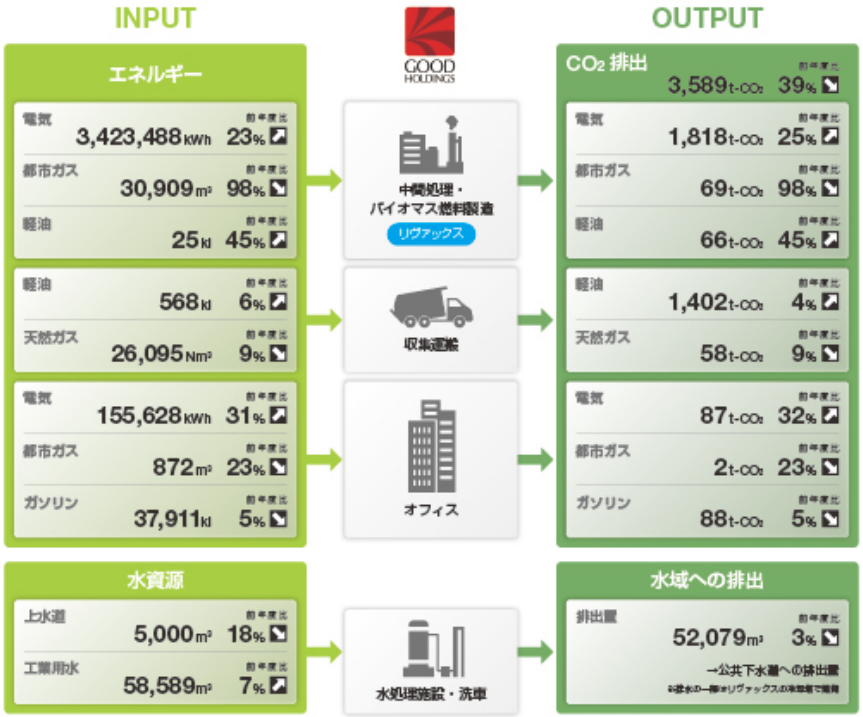
定期的に水質を分析し、適正管理に努めています

リヴァックスでは、廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。排水の異常を防ぐために、連続監視式の pH 計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。また、法律より厳しい自主基準値を設定し、月 1 回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然の予防に努めています。

2015 年度の検査結果はすべて規制値内でした(P.49 参照)。

マテリアルバランス

2015 年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量（INPUT）と二酸化炭素（CO_2）などの環境への排出量（OUTPUT）は次のとおりです。INPUT と OUTPUT を把握した上で、資源の有効活用及び環境負荷の低減に取り組んでいます。



○二酸化炭素（CO_2）の排出係数
- 供給された電気（購入電力）　0.0005311-CO_2/kWh
- 軽　油　（単位発熱量）37.7GJ/kl　（排出係数）0.0187tC/GJ
- 都市ガス　（単位発熱量）44.8GJ/千 Nm³　（排出係数）0.0136tC/GJ
- 天然ガス　（単位発熱量）43.5GJ/千 Nm³　（排出係数）0.0139tC/GJ
- ガソリン　（単位発熱量）34.6GJ/kl　（排出係数）0.0183tC/GJ

（出典）
- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- （平成 28 年 7 月 12 日環境省報道発表資料）
  平成 26 年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について
- 地球温暖化対策の推進に関する法律施行令　別表第一（第三条関係）

産業廃棄物処理フロー

リヴァックス

2015年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。

2015年度取扱量
合計72,189t

廃棄物 37,798t

汚泥
動植物性残さ
廃酸
廃アルカリ　等

飲料系廃棄物

廃プラスチック類　等
2,649t

提携先に委託している廃棄物
31,742t

乾燥処理

液状の廃棄物は濃縮処理後、泥状の廃棄物と混合して乾燥機に投入します。投入後、約4時間でバイオマス燃料に加工されます。

中身

分離処理

専用の倉庫で梱包材と商品とを分別。商品は破砕処理をして容器と中身に分け、中身は乾燥処理、容器は提携先でリサイクルされます。

破砕処理

選別：廃棄物の中に紛れているスプレー缶やボンベ、危険物等を手作業で丁寧に選別除去しています。

破砕：廃棄物の減容化及び金属付着物から分離した金属資源を回収しています。

提携先でのリサイクル

廃棄物の種類と性状に応じたリサイクル会社に運搬し、リサイクルしています。

乾燥処理後のリサイクル 5,537t

バイオマス燃料化(BSF) 2,187t
製紙会社やセメント会社でボイラー燃料としてリサイクルしています。
(熱量：18.8MJ/kg)

肥料原料 3,236t
有機性の汚泥や動植物性残さを肥料や堆肥の原料として利用しています。

サーマルリサイクル(異物分) 114t
廃棄物を焼却し、その熱をエネルギーとして利用しています。

水分蒸発量 30,062t
乾燥処理の工程で蒸発した廃棄物に含まれる水分の量。回収した水分は排水処理施設で浄化後、下水道へ放流します。

提携先でのリサイクル 34,317t

肥料化	14,649t
燃料化	3,966t
路盤材	4,742t
サーマルリサイクル	2,208t
マテリアルリサイクル	2,186t
飼料化	1,579t
その他リサイクル	4,987t

提携先での焼却・埋立 2,273t

焼却	811t
埋立	1,462t

グッとくるク・ル・マ
―チームワーク―

グッドホールディングスグループでは、さまざまな車両が活躍している。
その車両を動かすのは、もちろん人だ。
日々、一生懸命に仕事に取り組む姿の内なる心には、熱い気持ちがあった。
ここではパッカー車を運転する方々の想いを語ってもらった。

日頃のチームワークについて

株式会社大栄で廃棄物の回収を行う社員の年齢層は幅広く、勤続年数の長い社員も多く在籍しています。そのため、社員間でのコミュニケーションやチームワークが非常に重要になっています。特に家庭ごみの回収は運転手1名、ごみ回収1名の2名でタッグを組んでいます。そのタッグで約半年間エリアのごみ回収を行います。そのため、タッグには阿吽の呼吸とも言えるチームワークを備えています。家庭ごみの回収、事業ごみの回収を通して地域の方々とのコミュニケーションを取る場面も多く、地域に密着した仕事となります。

また、1日の内、社内で打ち合わせを3回実施しております。パッカー車の故障など、突然のトラブルが発生しても全員で解決策を考えます。さらに、それぞれのパッカー車には無線を搭載しており、作業の遅れているエリアには他エリアのパッカー車が応援に行くこともあります。

仕事のやりがいについて

勝田 伸幸(株式会社大栄　業務課　勤続27年目)
私は主に事業ごみの回収、運搬を行っております。日頃、多くのごみを回収するわけですが、その中にはごみが散乱し、ごみステーションが荒れていることもあります。そんな時こそ、我々が綺麗に回収することでお客様から「いつもありがとう」というお声をいただくと、気が引き締まる思いになります。

中屋 真二(株式会社大栄　業務課　勤続3年目)
私はまだ勤続年数が短く慣れないこともありますが、この職場は自分のスキルアップに非常に良い環境であると感じています。日々の回収でのお客様とのコミュニケーションや、先輩社員からの激励をいただく中で、自分の成長を感じることができ、生きがいとなっていきます。これからも精一杯期待に応えていきたいと思っています。

池本 芳郎(株式会社大栄　業務課　勤続23年目)
廃棄物処理の仕事というのは、公共性の高い仕事であり、地域に密着していると感じることが度々あります。お客様に「おはよう。」「ありがとう。」と声を掛けられると非常に励みになり、西宮をよりキレイにしたいと思います。

平田 良一(株式会社大栄　業務課　勤続19年目)
私が長年働いている中で意識していることは、「初心を忘れないこと」です。日々の回収に慣れてくると、どこか手を抜きたくなることも増えてきます。しかし、ひとたびパッカー車で街へ出れば、我々の仕事は地域の方に見守られていますので、丁寧さ、真摯さが重要になってきます。そのため、初心を忘れずに日々の仕事に励んでおります。

インターン生のコメント

柏本　晃邦
特集記事「グッとくるク・ル・マ」の編集にあたり、3回の取材を行いました。取材を通して、グッドホールディングスグループの社員からは、「真摯さ」「真面目さ」という言葉が度々登場し、純粋かつひたむきに日々の仕事に取り組む姿に感動し、引き込まれるような魅力を感じました。

従業員の人材力向上と、安心して働ける環境整備を進めています

■活動の目標と実績

活動テーマ	Plan 2015年度目標	Do 2015年度実績	Check 結果	Action 2016年度目標
リヴァックス				
パートナー※が安心して働ける職場環境づくり	事故ゼロ			
	- 休業災害:0件	➡ 0件	○	休業災害:0件
	- 不休災害:0件	➡ 2件	×	不休災害:0件
	- 物損事故:11件未満（2014年度比50%削減）	➡ 13件	×	物損事故:6件未満（2015年度比50%削減）
	事故防止			
	- パトロールの実施:月1回	➡ 月1回実施	○	パトロールの実施:月1回
	快適な職場づくり			
	- 社内一斉清掃の実施:2回	➡ 2回実施	○	社内一斉清掃の実施:2回
大栄				
パートナー※が安心して働ける職場環境づくり	事故件数の削減			
	- 5件（2013年度発生件数）未満	➡ 休業災害: 0件 ➡ 不休災害: 4件 ➡ 物損事故: 15件	×	5件未満
	安全快適な職場づくり			
	- 3S活動のシステム化	➡ 月1回の環境委員会で進捗状況を確認	○	3S活動のシステム化

大栄　2015年度実績　休業災害:4件、不休災害:4件、物損事故:3件

※ パートナー:社員並びに取引先などお客様のために一緒に働くすべての人たち。

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント／ヒヤリハット

リヴァックス

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

リヴァックスでは、OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントをおこなっています。2015年度は517件の危険源を抽出し、その中からリスクポイントの高い危険源を45件に特定し、リスク管理を実施しました。

リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する（例：安全柵の設置）などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策をとっています。

また、事故にはならなかったものの、ヒヤッとしたことやハッとしたことを抽出するヒヤリハットも常時おこなっており、2015年度は62件のヒヤリハットを抽出し、リスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

大栄　大協

収集業務の全車両に搭載し、事故防止に努めています

大栄と大協では、収集業務で使用する全車両にドライブレコーダーを搭載し、ドライバーの運転を管理しています。

ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立てています。

ドライブレコーダーの映像

株式会社大協　業務部　係長　北本　雅也

事故後に報告書を提出し、その後当事者とともにドライブレコーダーを確認するわけですが、事故後の当事者の配慮というものは、運転であっても興味関心の点が多く都合の良いように配慮が置き換えられていることが多々あります。自分自身の運転を客観的な視点で観察するという点でもかなり役立つものとなっております。

業務手順書の運用

マニュアルを活用し従業員の安全意識を高めています

事故や災害防止のために、リスク管理が求められる業務については、手順書を作成し従業員教育に活用しています。必要に応じて内容を見直し、その都度従業員に周知することにより、継続的に安全への意識を高めています。

さらに、大栄では、家庭ごみ・事業ごみの収集業務において、動画を取り入れた安全マニュアルを作成し、運用しています。これは、過去に発生した苦情・事故を分析し、各作業工程における危険源や留意点をまとめたもので、危機管理意識の浸透を図っています。

交通安全運転講習

外部から講師をお招きし、安全教育を強化しています

グループ全体で約80台の業務車両を保有し、お客様先から廃棄物を収集し、処理先まで運搬しています。事業をおこなう上で、「安全」は最優先事項であり、グループをあげて交通事故防止に取り組んでいます。

安全運転を徹底するための教育の一つとして、外部から講師をお招きし、安全教育を実施しています。

環境・安全に対する教育

マネジメントシステムに基づき、全パートナーに教育を実施しています

環境保全や事故・災害防止のためには従業員一人ひとりの意識が大切です。そのため、各事業会社のマネジメントシステムに基づいて、定期的に教育・訓練をおこなっています。

基礎的な教育として、全パートナーを対象に、方針をはじめマネジメントシステムの必要性、当期のプログラムなどについて説明し、意識の浸透・定着を図っています。

また、資格の保有が必要な業務や高いリスク管理能力が求められる業務に従事する部門を中心に、専門教育としてさまざまなプログラムを策定し、資格の取得を推進しています。

緊急事態対応訓練

火災や車両事故などの緊急事態への対応を訓練しています

火災や車両事故などの緊急事態を想定した対応手順を定め、その訓練を年1回実施しています。

消防署への通報訓練や避難訓練、消火訓練を実施し、いざというときに手順書通りに対処できるか、手順書に漏れがないかを確認しています。

酸素欠乏及び硫化水素中毒対策

リヴァックス

保護具着用訓練を毎月実施し、事故防止に努めています

有機性廃棄物の処理をするリヴァックスでは、廃棄物から発生する硫化水素中毒や、汚泥貯留槽に入るときに起こる酸素欠乏は大きな危険源です。

貯留槽のメンテナンスをおこなう処理センターでは、毎月エアラインマスクをはじめとする保護具着用の訓練を実施し、事故の未然防止に努めています。

人事に関する取り組み

人事制度

「年功型」と「成果型」を調和させた人事制度を運用しています

グッドホールディングスグループでは、社員が安心して働け、且つ取り組んだ成果が正当に評価される人事制度を目指しています。人事制度は、社内外の環境の変化に反応し、その時々の状況に合ったものに変化させていくことが大切であると考えています。

2013 年度までは各社が独自の人事制度を運用していましたが、おかたづけサービスやグリストラップ清掃など新しい事業が生まれる中で、真面目に頑張る人やチャレンジする人を応援し働きがいを感じられる制度を目指し、2014 年度に大栄と大協において人事制度を見直しました。以降は全社で「年功型」と「成果型」を調和したグループ共通の人事制度を運用しています。

公正な評価・処遇

自己評価に基づく面談を実施し、社員が納得できる処遇を重視しています

社員の能力や仕事に取り組む姿勢、成果に応じて評価し、その評価に基づいて適正に処遇する制度を設けています。年に2回、社員が半期を振り返り自己評価した上で、上長が評価し、面談にて課題や来期に期待することなどを話し合います。

これは、半年間の目標を決めてそれに向かって努力すること、社員自身が何を求められているのかを意識すること、評価に見合った処遇をすることを目的にしており、納得性の高い評価・処遇となるように努めています。

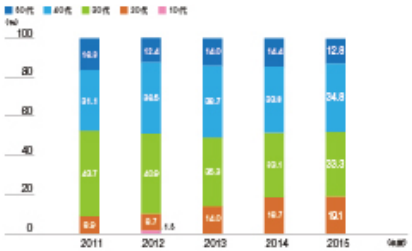
■人事制度

■人事関連データ

種類	2011	2012	2013	2014	2015
従業員数(名)	174	188	187	196	195
社員	131	135	136	141	143
アルバイト	43	53	51	55	52
女性従業員比率(%)	5.4	6.5	6.1	9.7	13.8
女性役職者比率(%)	7.7	9.8	7.9	8.3	8.1
社員平均年齢(歳)	40.2	40.3	40.0	39.3	39.0
社員平均勤続年数(年)	13.2	13.1	13.0	12.6	12.2
社員離職率(%)	7.3	2.9	7.1	6.3	6.7

※外国人の運用はなし

■社員の年齢構成



人材を創る研修

人材力向上のために「コーチング」を取り入れた研修で、会社と社員の「ベクトル合わせ」を進めています

新入社員研修として、廃棄物に関する基礎知識の習得や環境保全及び労働安全に対する意識付けを目的とした社内研修制度を設けています。

2014 年度からは働く人たちに焦点をあて、社員一人ひとりが働くことや生き方について考え、会社と個人のベクトル合わせを進めるため、コーチングを取り入れた研修をおこなっています。役職や役割に応じたマネジメントスキルや課題解決力を学ぶ階層別研修、業務知識やスキルを身につける職能別研修を実施し、多数の社員が参加しています。

■2015年度の研修プログラム

種類	対象者	人数	実績
マネジメント研修	課長職、係長職	10名	月1回/年90時間
リーダー研修	主任職	5名	月1回/年24時間
新入社員研修	新平入社社員	3名	年3回/年18時間
ブラッシュアップ研修	現場職(おかたづけサービス)	8名	年5回/年20時間
	現場職	14名	年3回/年18時間
	関東勤務社員	3名	年3回/年8時間
女性社員研修	女性社員(一般社員)	13名	年3回/年18時間
営業研修	営業職	19名	年8回/年36時間
人事研修	人事部門	2名	月1回/年24時間
役員研修(個人研修)	取締役、監査役	8名	月1回/年119時間

計180名

キャリアアップの支援

幹部候補のレベルアップをサポートしています

グッドホールディングスグループを牽引していく社員を育成するため、次世代の経営幹部候補を対象に「マネジメント研修」を、次世代の管理職候補を対象に「リーダー研修」を毎月1回実施しています。

自身が感じている課題の共有やグループ討議を通して解決のための方向性を考えると共に、リーダーに求められることや、組織に対する責任、部下の管理・育成について学んでいます。

■2016年度の研修プログラム

種類	対象者	人数	実績
マネジメント研修	部長職、課長職、係長職	12名	月1回
リーダー研修	係長職、主任職	15名	月1回
新入社員研修	新平入社社員	2名	年4回
ブラッシュアップ研修	現場職	20名	年3回
	女性社員(一般社員)	16名	年3回
営業研修	営業職	20名	年8回
	現場職(おかたづけサービス)	7名	年4回
人事研修	人事部門	3名	月4回
役員研修(個人研修)	取締役、監査役	7名	年3回/月1回

計102名

株式会社ダイキョウクリーン　営業課　主任　寺田　弘幸

企業を取り巻く外部環境が変化する中で、顧客接点の最前線である営業担当者には変化が求められています。今求められているのは、旧来の御用聞き型の営業スタイルではなく、顧客の抱えている課題を対話にとらえ、解決につなげる提案型の営業です。そういった力を身に付ける為、グループディスカッションや研修等に営業職の疑問のお話を「生の声」として聞かせて頂けるのは大変貴重な経験です。同じ業界や社内の人とだけ話しをしているよりも考え方の幅も深さも増していきますし様々な判断をしていく上で大いに気づきを与えてくれています。これらは所属、自分の職務においての「強み」になりますね。

安心して働ける環境づくり

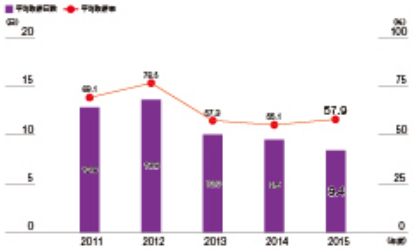
ワーク・ライフ・バランス

ライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めています。

特に、従業員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を重要テーマととらえ、出産や子育て、家族の看護・介護などのライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。配偶者の出産時には3日間の特別休暇制度を設けている他、リヴァックスでは、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしています。

■有給休暇取得状況



■主な支援制度

制度名	制度の内容	2015年度利用者
産前産後休業制度	出産前及び出産後において一定の期間で休業が可能です	該当者なし
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで（最長1歳6ヶ月まで）休業が可能です	0名
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	2名 （該当者2名のうち）
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	延べ9名
ボランティア休暇制度	ボランティア活動に従事する社員に2日以内の特別休暇を付与します	0名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	延べ19名

気質診断の実施

最適な人材配置の参考にしています

研修に参加する全社員を対象に気質診断をおこなっています。これは、会社と個人のベクトル合わせの一環として、自身のパーソナリティと行動特性を意識し、さらにそれらを業務や職場のコミュニケーションに生かしてほしいと考えたものです。

個々の気質を把握することによって、適材適所な配置、力を発揮できる場を提供し、人材力を高める取り組みを推進していきます。

従業員アンケートの実施

働きやすい職場づくりに活用しています

従業員一人ひとりの仕事に対する考え方や働きがいについて把握し、働きやすい環境を整備していくことを目的に、計5回の従業員アンケートを実施しました。アルバイト・パートを含めた全従業員を対象に、自身の仕事内容や職場環境、周囲との人間関係などについて無記名で回答を得ました。

定期的にアンケートを実施することで改善できたことや課題を把握し、その結果を意識しながら職場づくりを進めていきます。

永年勤続者・社長賞表彰

功績を称え、22名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績を称え、永年勤続者として表彰しています。2015年度は勤続10年社員2名、勤続20年社員8名、勤続30年社員1名、計11名を表彰しました。

また、大栄／リリーフでは、会社のために特に力を尽くしてくれた従業員14名に社長賞を贈呈しました。

リヴァックスの永年勤続者表彰

採用活動

9名が新たに仲間に加わりました

事業拡大に伴う人員増強として、2015年度は新卒採用者4名、中途採用者5名の仲間を迎え入れました。2016年度入社の新卒採用では、2名が4月に入社しました。

また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2015年度は7名、2016年度は4名のアルバイトを正社員に登用しました。

2016年度入社式

健康診断の実施

健康診断を実施し、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮しています

すべての社員を対象に年に1回（深夜勤務のある社員は半年に1回）健康診断を実施しています。健康診断の結果がC～E判定の社員については、医師に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受けています。

これらの情報を提供し社員の健康管理に対する意識を高めると共に、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなど、健康支援に努めています。

健全な労使関係

より良い労働環境のために労使双方が協力しています

リヴァックス労働組合及び大協労働組合は、管理職（課長職相当）と労務・経理担当者を除いた社員で構成されており、ユニオンショップ制を採用しています。労働組合と会社経営側の労使交渉は適宜おこないます。また、大栄においては、アルバイトも含めた全従業員を対象に、定例労使協議会を月に1回開催しています。

労使交渉では、賃与の支給月数をはじめ、交通費の見直しや有給休暇の取得など、さまざまな議題を検討し、より良い労働環境に近づくよう協力して取り組んでいます。

3S活動の推進

「整理・整頓・清掃」をグループ全体で推進しています

きれいな職場を保つことが労働安全につながるとの考えのもと、3S活動（整理・整頓・清掃）を推進しています。例えば、備品や工具類の使用頻度基準を定め、それを元に必要数及び保管場所を決め、誰が見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。

これらの活動は、安全面だけではなく、仕事に使う備品や道具を探し回るような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。

株式会社リリーフ　おかたづけ事業部　営業課　鈴木　太郎

私は数年のアルバイト経験を経て、正社員に登用していただきました。アルバイト時代とは違い、当然責務を負うことも多くなりましたが、現在はおかたづけ事業の営業マンとして、会社への感謝の気持ちと、やりがいを持って業務に取り組んでいます。

企業市民として、地域社会との交流や次世代の育成に取り組んでいます

■活動の目標と実績

活動テーマ	Plan 2015年度目標	Do 2015年度実績	Check 結果	Action 2016年度目標
リヴァックス				
社会に安心、信頼される企業づくり	外部評価の実施	➡トップダイアログ開催	○	外部評価の実施
	すべてのステークホルダーから安心、信頼されるための継続的な取り組み	➡CSR報告書の発行 ➡報告書賞への応募 ➡環境学習の実施	○	継続的な実施
大 栄				
社会に安心、信頼される企業づくり	地域交流の実施	➡ソフトボール大会に参加 ➡自治会地域清掃の参加	○	継続的な実施
	社会活動の実施	➡CSR報告書の発行 ➡清掃活動の実施(週1回) ➡伊丹市内の小学校へサツマイモ苗を寄贈	○	継続的な実施
大 栄				
社会に安心、信頼される企業づくり	地域社会への貢献	➡CSR報告書の発行 ➡こども農園に参加	○	継続的な実施

社会貢献活動

施設見学の受け入れ リヴァックス

さまざまなステークホルダーに公開し、廃棄物処理への理解を促進しています

リヴァックスでは、お取引のある排出事業者様をはじめ、学生や地域の方にも処理施設を公開しています。

2015年度は、415名84団体(うち取引外4団体)が見学に来られました。

JICA研修の受け入れ

リヴァックス リリーフ 大 栄

海外の廃棄物に関する課題解決を支援しています

独立行政法人国際協力機構(JICA)関西では、各国の廃棄物に関わる自治体職員の行政能力向上を目的とした研修をされています。2015年度は6月と11月、3月に研修員の受け入れに協力しました。

リヴァックスでは、バイオマス燃料化事業や処理フローなどについて、大栄では、ごみ収集現場の視察や作業における危険源とそれらの対応策、リリーフでは、海外リユースの概要を紹介しました。

環境教育

廃棄物や農業について、子どもたちに学びの機会を提供しています

グッドホールディングスグループでは、未来の消費者に対する教育支援として、地域の学校で環境教育をおこなっています。

リヴァックスでは、私たちの生活に身近な「清涼飲料」から環境問題について考えてもらおうと、2008年度から関西大学第一中学校2年生に環境学習を実施しています。6月の事前学習では、コカ・コーラウエスト株式会社と協働で、飲料商品のリサイクルについて講演しました。そして7月には、リサイクル施設を見学していただきました。

関西大学第一中学校の施設見学

大栄では、西宮市内の小学校や高校で出前授業をおこなっています。2015年度は5月に小学校を訪問し、ごみの種類とその分別方法、ごみ収集車の仕組みについて実際の車両を用いて説明しました。

段上西小学校での出前授業

株式会社大栄 事業部 主任 橋本 哲也

このたび、段上西小学校にて出前授業を行いました。
西宮市では社会科の授業で環境学習があり、4年生を対象に西宮市のごみについて、パッカー車の仕組みを知るという内容のもと、総勢130名の生徒を対象に授業させていただきました。
内容としましては、西宮市の取り扱う一般家庭から出るごみの種類や出し方についてと、パッカー車の機能のお話など行い、最後には、今日学習した内容にそったクイズなども行い、有意義な時間の中、環境学習ができました。
今回の学習を今後の生活に生かして頂けるととても嬉しいです。

大協では、2010年度から伊丹市内の小学校にサツマイモの苗を寄贈し、栽培を通じて、子どもたちの環境教育や食育を支援しています。

グッドホールディングスグループは、NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF)が主催する「甲山農地プロジェクト」にスポンサーとして参加しており、この苗は、LEAFが落ち葉でつくった堆肥をもとに育苗したものです。

2015年度は17校及び特別支援学校と公立幼稚園2園に2,045苗を寄贈しました。

インターンシップ生の受け入れ

リリーフ

高校生・大学生の就業体験の場を提供しています

グッドホールディングスグループでは、高校生・大学生を対象に、就業体験を通じて社会を知り、自分の将来について考えてもらうことを目的に、インターンシップをおこなっています。

2015年度は、リリーフが近畿大学の学生2名を受け入れ、2週間の期間で、営業同行や事務処理などを体験していただきました。

こども農業塾の開催

社員がスタッフとして、子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

西宮市内の小学校４年生から６年生を対象に、半年にわたって市内の甲山農地で土づくりや米づくりを体験する「こども農業塾」をおこなっています。「食」の基になる農業体験を通して、農業の楽しさや作物を育てることの難しさ、自然循環の大切さを学んでもらおうと、2011 年度から大栄が主催し、運営事務局の LEAF と協働で開催しています。

2014 年度からは、新入社員に対する社員教育の一環として、グループ全体で取り組んでいます。

株式会社リリーフ　リユース事業部　長巳　ひかり

今回農業塾に参加させて頂いて、子どもたちと一緒に「食」「農」「環境」について勉強させて頂きました。
また、社員教育の一環として取り組み、子どもたちのリーダーを体験して、初めは子どもたちとうまくコミュニケーションが取れなかったのですが、野菜を一緒に収穫したり、田植えに挑戦したりと少しずつ子どもたちとふれあい、作物の大切さと生き物の大切さを学び、子どもたちと一緒に成長できたかなと思いました。
最後になりましたが、この農業塾に参加させて頂いたことに感謝致します。

企業スポーツ活動

セーリングチームが各種大会に出場 念願の世界大会出場を果たしました

グッドホールディングスグループでは、2013 年にセーリングチームを創部し、いろいろな大会に出場しています。2015 年４月から２名が加わって２艘４名となり、練習も一段と活気にあふれ快進撃を続けています。

2015 年 11 月に開催された「全日本スナイプ選手権大会」では、平田・田邊コンビが６位入賞の好成績をおさめ、遂に世界大会の出場権を獲得。2016 年 6 月にブラジルで開催された世界大会に出場しました。

■2015年度業績・活動報告

7月　関西実業団ヨット選手権大会
森谷・河野コンビ　優勝
平田・田邊コンビ　２位
チーム総合成績　優勝

8月　国際スナイプ級関西選手権大会
平田・田邊コンビ　優勝
森谷・河野コンビ　２位

9月　体験試乗会開催

10月　全日本実業団ヨット選手権大会
平田・田邊コンビ　優勝
森谷・河野コンビ　15 位
チーム総合成績　４位入賞

11月　全日本スナイプ級ヨット選手権大会
平田・田邊コンビ　６位入賞

お客様とのコミュニケーション

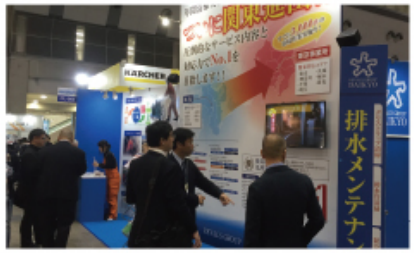
展示会への出展

お客様との接点を増やしています

事業内容や CSR の取り組みをたくさんの方に知っていただくために、各社がさまざまな展示会に出展しています。

■2015年度に出展した主な展示会

開催月	出展者	名　称
4月	リリーフ	バリアフリー2015 優性期医療展2015
5月	リヴァックス	第24回 2015NEW環境展
5月	ダイキョウクリーン	[関西]外食ビジネスウィーク2015
6月	リリーフ	フューネラルビジネスフェア2015
7月	リヴァックス	下水道展'15東京
8月	リリーフ	賃貸住宅フェア2015 in東京
10月	リヴァックス	びわ湖環境ビジネスメッセ2015
11月	ダイキョウクリーン	クリーンEXPO2015
3月	リリーフ	フランチャイズ・ショー2016



セミナーの開催　リヴァックス　リリーフ

お客様や消費者への啓蒙活動に努めています

リヴァックスでは、廃棄物管理に関わる担当者様を対象としたセミナーを開催しています。

2015 年度は６月に BUN 環境課題研修事務所 主宰の長岡文明氏をお招きし、「重要通知に学ぶ廃棄物処理法」、２月には行政書士エース環境法務事務所 代表の尾上雅典氏をお招きし、「廃棄物管理責任者がやってはいけない４つの間違い」と題する講演をしていただきました。いずれも参加された 90% 以上の方にご満足いただき好評でした。

第7回廃棄物管理実務者セミナー

リリーフでは、展示会や取引先主催のイベントで講演をおこなっています。家庭内事故防止の観点から、生前から身のまわりを整理しておくことの大切さについて、お客様の事例を交えて紹介しました。

合同慰霊祭の開催　リリーフ

故人と遺品への想いを大切にしています

リリーフでは、故人様及び遺品に対する供養と慈しみの心を大切に考え、年２回春と秋に合同慰霊祭を催しています。これは、スタッフが人の死や家族の悲しみに接する中で、遺品にはたくさんの思い出がつまっていることを感じ、感謝の気持ちを込めて供養したいという想いから始まりました。

これからも、故人様やご遺族に寄り添う気持ちを忘れず、誠実で丁寧な対応を心掛けていきます。

消費者課題への取り組み

海外リユース リリーフ

国内で出た不用品を、海外で必要としている方々にお届けしています

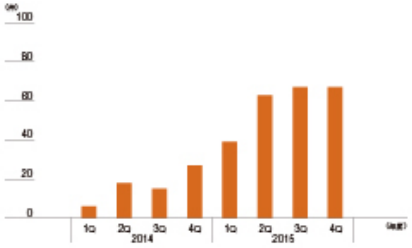
おかたづけサービスをおこなうリリーフでは、回収した不用品のリユース（再使用）に着目し、それらを必要とする海外の人々に販売する取り組みを進めています。

国内では需要が少なくても、需要のある国に輸出することにより、まだ使えるものを捨てることに抵抗があるお客様の気持ちを和らげ、且つ、リユースするものは処分費がかからないためサービス料金の低減にもつながります。

この取り組みに共感してくださるお客様を通じて回収点数を着実に伸ばす一方、カンボジアやタイなどの東南アジアを中心にネットワークを構築し、徐々にその販路を広げています。

2015年4月からは専任の担当者をおき、マーケティングやバイヤーのサポートを強化し、海外の方々にさらに喜んでいただけるサービスを展開していきたいと考えています。

■コンテナ輸出本数（四半期推移）



ウェブカメラの設置 リヴァックス

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

リヴァックスでは、廃棄物の搬入や処理状況がリアルタイムで確認できるように、施設内にウェブカメラを設置し、ホームページ上でその模様を公開しています。

ウェブカメラの設置箇所は 4 箇所あり、それぞれ、①廃棄物の搬入・計量場所、②破砕施設の全景、③破砕機の投入口付近※、④乾燥施設の搬入ヤードとなっています。

いつどこからでも、処理の様子が確認できるということで、お客様だけでなく近隣地域住民の方々からもご好評をいただいています。

※ ③のカメラは、お客様情報を保護するため、廃棄物を排出されたお客様だけに公開できるようパスワードを設定。

①廃棄物の搬入

②破砕施設

③破砕機投入口（限定公開）

④乾燥施設

過積載の防止 リヴァックス

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物を収集運搬するリヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。

積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

株式会社リーフ　リユース事業部　業務課
課長　菅島　賀司

日本から出荷するリユース品は、海外で日本製品のみならず、他国製品のものでも品質に厳しい日本人が認めたものとして高い人気を得ています。
リリーフでは、現地輸出後に定期的に現地を訪問し現場にお客様の声を聞くことで、国によってのニーズのクセを極力減らし全てのお客様に満足していただけるよう日々努めてます。

処理前契約の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託及び受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。弊社グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。

とりわけ、産業廃棄物に限定した事業をおこなうリヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認をおこなうことにより、処理前の契約締結に努めています。

廃棄物計量システム 大栄 大協

ごみ処理量を「見える化」し、料金の明確化とごみの減量化を実現しています

大栄と大協では、車両にごみを積み込むだけで重量を計測できる「スケールパッカー車」を導入し、各取引先のごみ重量を一元管理しています。

このシステムの導入により、お客様に対してごみ処理量の透明性を確保できると共に、ごみの発生抑制・減量化の提案につなげることができました。数字による「ごみの見える化」は、お客様のごみ減量に対する意識を高め、全体として予想以上の減量に至り成果を上げています。

また、ごみの排出量に応じて収集費用を算出する「従量課金制」を取り入れ、「ごみ減量＝経費削減」を実現し、お客様の間にさらに広がっていきました。ごみの収集量が減少すれば、弊社グループの売上は減少しますが、ごみ減量の提案を通じて取引先件数を増やすことで、結果として売上を伸ばしています。これは、営業努力もさることながら、お客様から弊社グループへの信頼の証であると考えています。

■廃棄物計量システムの流れ

収集したごみの量を測定

送信ボタンを押し、お客様ごとの重量データを会社に送信

収集時の重量と位置情報をパソコンにリアルタイムで反映、データを一元管理

ごみ量（＝経費）が把握でき、ごみ減量に対する意識が高まる

契約外廃棄物の混入防止 リヴァックス

コンテナに掲示板を設置するなど、混入防止に努めています

お客様から受託した産業廃棄物は、リヴァックスの処理基準に則り処理可能なものであるか否かによって、分別をお願いしています。

事前の契約とは違うものが混入されていた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、それが危険物であった場合は、事故や火災の原因になる可能性があります。

これらの混入があった場合は、すみやかにお客様に報告し、再発防止に努めています。また、お客様の事業所に設置しているコンテナ箱に混入禁止物の掲示板を設置するなど、予防にも努めています。

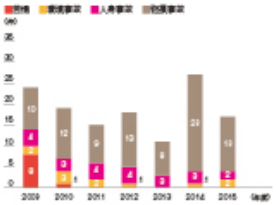
苦情・事故

2015年度の苦情・事故は53件（苦情4件・環境事故3件・事故46件）で、前年度59件（苦情4件・環境事故2件・事故53件）と比較し、わずかながら減少しました。

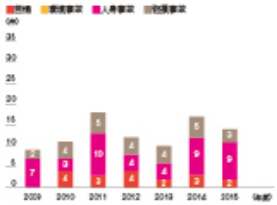
会社別にみると、大協／ダイキョウクリーンの件数が増加しており、これは収集コースや作業体制の変更等により慣れない作業が増えたことが原因の一つと考えています。

※2012～2014年度の苦情・事故はP53～55に掲載しています

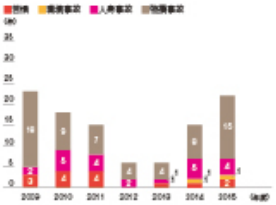
リヴァックス



大栄／リリーフ



大協／ダイキョウクリーン



リヴァックス

苦情 0件
環境事故 2件

内　容	原　因	対　策
お客様先でピット清掃中に油臭がしたため確認すると、廃油から軽油が漏れていた	燃料噴射ポンプの故障	メーカーの3ヶ月点検の項目に、不具合のあった電磁弁の確認を追加
お客様先で作業中にシリンダーからオイル油漏れが発生した	シリンダーシール部分の劣化	・該当車両はシリンダーを交換 ・他車両も一斉点検を実施、社内の3ヶ月点検項目に追加 ・発生を想定した緊急事態対応訓練を実施

人身事故 2件

内　容	原　因	対　策
乾燥施設で部品の交換復旧をした際に、重量物を持ってもう一人の作業員を待っていたところ、少し動かした拍子にバランスが崩れ、両手の小指を挟み裂傷した	組織的問題 無だったこと、これが続くと復旧作業が完了するとの思いから気持ちが焦っていた	・KY(危険予知)活動を徹底し、作業員同士が焦らないよう声を掛け合う ・重量物の作業時は保護手袋を着用する
お客様先でピット清掃中に、路ね返った汚水が顔と目にかかり炎症した	保護メガネを着用していたが隙間から入り、また、汗をかいていたため不用意にこすってしまった	・路ね返り防止のため、洗浄時はシールド付ランスを使用する ・pH測定器が感覚作業で測ける基準を超えている場合は、面倒の保護具を着用する

物損事故 13件

内　容	原　因	対　策
提携先の処理場で排出のためバックしたところ、車両後方がショベルと接触した	ショベルの運転手がこちらの車両を認識していると思い込んでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した
赤信号で停車中にクレーン現象が発生し、前の車に追突した	助手席に置いていた鞄から書類を取ろうとして、ブレーキから足が浮いてしまった	事故内容を周知し、注意を喚起した
場内でコンテナを引き上げた際に、フックからコンテナが外れて滑り落ち、アスファルトが快れた	コンテナがフックに掛かっていると思い込んでいた	コンテナ引き上げ作業時は、運転席から降りて、確実にフックに収まっていることを目視で確認する
お客様先から退出する際に、切り返しのためバックしたところ、後方の車両に気付かず衝突した	左右の通行者に気をとられ、後方確認が不十分だった	事故内容を周知し、注意を喚起した
お客様先で廃棄物を積んで後退中に、コンテナからはみ出ている廃棄物が上部の電線線に引っ掛かり、線を支えていた支柱が倒れた	狭い場所をバックで走行していたため、サイドミラーによる幅の確認に集中が集中し、上部の確認をしていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
場内の乗込場にバックで入った際に、車両を建物に寄せ過ぎてウィンカーが破損した	暗くてミラー越しでは見えづらい上、日頃のラインが汚れて見えなくなっていた	・ラインテープの貼り直し ・月に1回、ラインの曇りや汚れを確認する
乾燥施設の燃料製造工程で製品の排出口が詰まり気味だったため、詰まりを解消しようとエアーピンプローを作動したところ、粉じん煙突を超えた建屋の一部を損傷した	煙りの煙が充満している状況下でエアーピンプローを作動させたことにより、ホッパー内に粉じんが舞い、煙突の条件が崩れた	・ピンプローの充填気体をエアーから窒素へ変更した ・煙りの可能性及びピンプロー作動時に関して、乾燥施設の手順書を改訂し社内教育を実施した
搬入車両が場内にバックで進入していたところ、シャッター前の柱と車両の荷台後方が接触した	・運転手の後方確認不足 ・所社の誘導員が不在のまま進入した	・運転手が到着した際の待機場所を指定し、搬入時の誘導を徹底する ・シャッターを開けたまま閉じない
お客様先にて空コンテナを収集きする際に、コンテナ側部を資材置き場の壁面に接触させ破損した	日の出前で暗い上に雨で見えにくい状況だったが、ミラーのみで後方確認をすませた	作業前に車両から降りて周りの状況を確認するよう手順書を変更した
一方通行の道路を走行中に一旦停止を無視した車と衝突した	優先順位を走行していたため、飛び出してこないと思い込んでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した

内　容	原　因	対　策
駐車場にてコンテナを引き上げた際にフックから外れ落ち、フェンスを破損した	コンテナがフェンスに引っ掛かっていることに気付かず、引き上げようとした	コンテナ引き上げ作業時は、運転席から降りて目視及び指さし確認をする
取引先の敷地から出ようとして左にハンドルを切ったところ、入口付近の縁石に乗り上げた	前日の睡眠不足により注意が散漫になり確認を怠った	安全運転への意識を喚起するため、使用のアルコールチェック表に、前日の睡眠時間を記入する欄を追加した
お客様先でホースを片付けていたところホースが樹子にあたり、その拍子で割れた樹子が電灯にあたって破損した	いつもは二人で片付けるが、時間無効の引取りに一人が行ったため、一人で片付けていた	事故内容を周知し、注意を喚起した

大栄／リリーフ

苦情 2件

内　容	原　因	対　策
市民の方から収集コースの間違いに対する指摘をいただいた	収集コースの確認が足りなかった	全使用員で作業手順を再確認した
処理先へ持ち込んだ廃棄物に処理不可物が紛れていた	廃棄物の内容の確認が十分ではなかった	収集時に内容の確認を徹底するよう指導した

環境事故 0件
人身事故 9件

内　容	原　因	対　策
ごみステーションと自社車両の間を通って通り抜けようとして、伸びていた木の枝に顔を引っ掛け切傷した	スピード運転で作業していたため、周りの状況が見えていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
バイクで帰宅中に、無理な車線変更をしてきた車に衝突され転倒した	相手が無理な運転をするとは思わなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
交差点を左折時に、左後方から直進してきたバイクと接触しそうになり相手が転倒した	・サイドミラーをよく確認していなかった ・早めに挙動を出さなかった	当事者に厳重注意し、全使用員に安全確認を徹底するよう指導した
帰宅途中に横断歩道を自転車で走行していたところ、右折車に衝突され腰を骨折した	青信号だったため、車は来ないだろうと思っていた	事故内容を周知し、注意を喚起した
食事の配膳作業時に、壁に立てかけていたスノーボードが倒れ、後頭部にあたり負傷した	スノーボードが倒れるリスクを想定していなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
次のごみステーションに向かおうとして、自身の足に躓いて転倒し、左肩上を負傷した	足元をよく見ていなかった	作業前に周りの状況を確認し、落ち着いて収集するように指導した
一度に数個のごみ袋を持ち上げ、無理をして車両に投げ入れたところ右肘を痛めた	安全マニュアルを守らず、無理な作業をした	安全マニュアルに従って作業するように周知した
会社から出発しようと車を動かしたところ、窓に手を置いていた従業員が横に駐車していた車両との間に手を挟まれ負傷した	自社構内のため油断して安全確認を怠り、他の従業員が窓に手を置いていることに気付かなかった	会社から出発する際も前後・左右の確認を徹底するように指導した
バイクで帰宅途中に左折してきたバスに気がとられ、バランスを崩して転倒し、左手首と肘を骨折した	帰宅途中にポストに投函しようと郵便物を足に挟んで運転していた	事故内容を周知し、注意を喚起した

物損事故 3件

内　容	原　因	対　策
交差点進入時に一旦停止せず進入してきた車に気付くのが遅れ、相手車両のお後部に接触した	左右確認が十分ではなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
次のごみステーションへ移動しようと車両を動かしたところ、後方から追い越しをしてきた車両と接触した	十分な後方確認ができていなかった	当事者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し注意を喚起した
ごみステーションに向かってバックした際に、後方の車両に接触した	十分な後方確認ができていなかった	運転者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し注意を喚起した

大協／ダイキョウクリーン

苦情 2件

内　容	原　因	対　策
お客様から、歩き疲れて座っていたお年寄りに対する思いやり無度に対して優しさが足りないとの連絡をいただいた	収集の効率になっていたため場に着っていただこうと、本人は善意に伝えたつもりだった	同じ意味を伝えるにも思いやり無度を与える印象が異なることを理解し、市民のかへの気配りを忘れないよう指導した
取引先から、収集した廃棄物が車から落下しているとの連絡をいただいた	落下防止用のシートが破れていたため緊急処置として他のシートを使用、通常よりサイズが小さかったため側面から廃棄物が落下した	・予備のシートを購入する ・作業前に備品に不備がないかを確認する

環境事故 1件

内　容	原　因	対　策
お客様先で収集車両から油(燃料)が漏れていた	自社の日次点検でも、メーカーの点検でも発覚していない機所から漏れていた	・メーカーから報告書の提出を受け部品を交換した ・作業中に異変を感じたら、その場で確認するよう周知した

人身事故 4件

内　容	原　因	対　策
車両から降りてごみステーションに向かおうとして、側溝に転落し腰を負傷した	足元をよくみていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
台車に載せていた資材が落ちそうになったため、防ごうとして転倒した手をついた際に捻挫した	積荷を台車の前側に置いていたためバランスが崩かった	台車から落ちる恐れがある場合は資材を降ろして作業する
一斗缶に入った廃棄物(塗料)を持ち上げようとして手が滑り、缶の切り口で薬指を切った	・時間短縮のため一度に缶缶を持ち上げた ・一斗缶が下の台車にくっついていたため思ったように持ち上がらなかった	無理な作業はしないよう、事故内容を周知した

内　容	原　因	対　策
大型ごみの梱込中に、プレスしていた木材が左足にあたって打撲した	下方向に木材が飛んでくると思っていなかったため避けられなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した

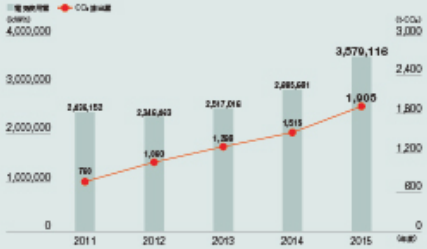
物損事故 15件

内　容	原　因	対　策
前後から車が来たため、後方の車に乗ろうと車両を動かしたところ壁面に接触した	慣れた道路なので油断して、周囲の確認を怠った	周囲や死角の確認を怠らないよう指導した
廃引先のごみ車から出ようとして、左後方をシャッターに接触させ破損した	車両後方の外観等の確認が不十分だった	当事者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し、注意を喚起した
収集を終えて退出しようと左折したところ、右後方のライトが壁に接触した	通常は奥から入ってバックで退出するルートだったが、その確認を怠りバックで進入していた	道路事情が良くない場所は助手に誘導してもらうか、車両を停めて自分の目で確認するよう指導した
収集のためバザードを出して右にハンドルを切ったところ、後方からきた車と衝突した	後方車が止まるだろうと思い込み、安全確認が不十分だった	通常とは異なる動きをする際は、必ず一旦停止して安全を確認するよう指導した
緩やかな坂道でサイドブレーキをかけて収集していたところ、車が動き出しごみステーションの壁に接触した	積荷な等車重量を誤ったため、サイドブレーキが利いていなかった	勾配のある場所で停車する場合は念入りに確認するよう指導した
交差点を右折時に、左折してきた対向車と接触した	左右の安全確認に気をとられ、対向車の動きを見落としていた	事故内容を周知し、注意を喚起した
不燃ごみ収集時に車両火災が発生した	ガスボンベが混ざっていた	中身の確認を徹底するよう周知した
急停車した前方車両に追突した	車間距離が短かった	事故内容を周知し、注意を喚起した
乗車しようとドアを開けたところ、後方から来た車のミラーに接触した	収集が遅れていたため急ごうと確認が疎かになった	乗車時、降車時はお子様周辺の確認をするように周知した
不燃ごみ収集時に車両火災が発生した	スプレー缶が混ざっていた	中身の確認を徹底すると共に、音先にかけて発生の可能性が高まるので注意を促した
車両をバックさしたところ、右後方に停まっていた車両に接触した	左側の障害物に気をとられ、右側の車両は通過したと思い込み確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
交差点を走行中に左前方がガードレールに接触した	左側の道路から走行してくる車に気をとられ、ガードレールを見落とした	事故内容を周知し、注意を喚起した
処理先にて、計量の信号が赤なのに進み車両のミラーがバーに接触した	考え事をしていて基本的な確認を怠った	当事者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し、注意を喚起した
自社構内で廃引車を後退時に車が傾き、横に駐車していた車両に接触した	扉のロックの掛かり具合を確認していなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
処理先の場内を右折時に、置いてあったカラーコーンを右後輪で巻き込み破損した	道路を間違えて来ていたため、巻き込みの安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した

環境パフォーマンスデータ

グッドホールディングスグループにおける過去５年間の推移です。
INPUT と OUTPUT の数値を把握し、改善のための指標にしています。

■電気使用量



■都市ガス使用量

■天然ガス使用量

■ガソリン使用量

■水使用量

■水域への排出量

■CO_2総排出量

■軽油の燃費

環境測定結果

リヴァックスでは、法律や環境保全協定に基づいて、臭気及び大気、水質の測定を定期的におこなっています。2015年度も前年度に引き続きすべての測定値が規制値内でした。

臭気測定結果 （2015年10月22日:敷地境界4地点で測定）

悪臭物質名	規制基準	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	0.05	<0.05	0.12	<0.05
メチルメルカプタン	0.002	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	<0.002	<0.002	0.007	<0.002
ノルマルバレルアルデヒド	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソバレルアルデヒド	0.003	<0.004	<0.004	0.007	<0.004
イソブタノール	0.9	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度	30	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果 （2015年10月22日、2016年3月7日実施）

測定項目	規制基準		単位	1回目	2回目
窒素酸化物(NOx)	排出基準	150	ppm	52	48
	時間あたり排出量	0.42	m³N	0.3	0.3
	年間排出量	6.20	t	4.8	5.0
硫化酸化物(SOx)	排出基準	–	ppm	1	4
	K値規制	1.4	m³N	<0.02	0.03
	総量規制	0.38	m³N	<0.02	0.03
ばいじん	排出基準	0.05	g/m³N	<0.001	<0.001

重金属等の水質検査結果 （2015年5月27日採水）

測定項目	単位	規制基準	結果
水温	℃	45以下	22.6
pH	—	5.0～9.0	7.2
カドミウム	mg/l	0.03以下	<0.003
シアン	mg/l	0.3以下	<0.1
鉛	mg/l	0.1以下	<0.01
六価クロム	mg/l	0.1以下	<0.02
ひ素	mg/l	0.05以下	<0.01
総水銀	mg/l	0.005以下	<0.0005
総クロム	mg/l	2以下	<0.2
銅	mg/l	3以下	<0.01
亜鉛	mg/l	2以下	0.02
溶解性鉄	mg/l	10以下	<0.1
溶解性マンガン	mg/l	10以下	<0.1
動植物油含有量	mg/l	30以下	<1
鉱物油含有量	mg/l	5以下	2

西宮市による水質測定結果 （2015年度）

測定項目	規制基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	19	24	24	27	29	27	23	20	18	14	15	18
pH	5.0～9.0	6.5	8.2	6.1	8.0	7.7	6.9	7.3	7.4	7.6	8.0	7.7	8.0
BOD	600mg/l以下	5	16	3	5	2	2	8	37	43	4	18	1
SS	600mg/l以下	<1	24	2	13	1	<1	1	1	3	1	25	3

過去の苦情・事故

2014年度の苦情・事故

リヴァックス

苦情 0件 / 職病事故 1件

内容	原因	対策
お客様先にて取引作業中に、車両上部より異臭が吹き出し、床面及び側面に流出した	タンクが満タンになった時点で、通常は取引を停止するが、本来入らない部分にまで液が入り込んでしまった	・お客様と協議し、今後はタンク半分程度の引取りとする ・取引車に消泡剤を常備する

人身事故 3件

内容	原因	対策
バイクで帰宅途中に交差点を左折したところ、雨でスリップして転倒し左膝を擦傷した	道路が濡れていたが、いつも通りのスピードで走行していた	事故内容を周知し、注意を喚起した
トラックの荷台に乗り、木くず(パレット)の積込みをしていた際に腰を負傷した	前日前から腰に違和感があったにもかかわらず、無理をして腰を使った	・腰痛の原因となりうる作業や対処法に関する資料を配布し注意を喚起した ・腰痛予防のため、職員にコルセットを支給し、積込みや取引作業時に着用するよう周知した
帰宅時に事務所玄関の階段で転倒し、右足首を捻挫した	ライトが無くて暗い上に、急いでいて足元を注意していなかった	・2015年度に他の工事とあわせてライトを設置する ・設置までは、搬入門より退出するよう周知した

物損事故 23件

内容	原因	対策
リバース・マネジメントセンターで荷降ろし作業中に、荷崩れを起こし、周りの壁に接触した	通常のパレットとサイズが違うことに気付かず、2段積みをしたため不安定になった	パレットを積み重ねる場合は、大きさや種類を確認するよう周知した
お客様先にてコンテナを設置する際に、コンテナ後部を配管に接触させ破損した	コンテナの種類が通常と違っていたが、これまで通りの作業で問題ないと思っていた	幅や高さなど条件にあったコンテナを使用するように周知した
場内を7t車でUターンした際に、右側後方がポールに接触した	現場の広間では大型車が荷降ろしをしていて、前方にはバッカンが置いてあった上め、大周りができず ハンドルを早く切りすぎた	バッカン等の保管禁止場所を設け、現場の動線を確保した
提携先の処理場で排出中に、天井のスプリンクラーの配管にコンテナが接触した	助手席側の配管が一段下がっていることに気付かずに、ダンプしてしまった	事故内容を周知し、注意を喚起した
乾燥設備から退出する際、シャッターの開閉待ちのため一旦停止をしたところエンストしてしまい、車両のアンダーミラーがシャッターに接触した	・シートシャッターに近い位置で停車していた ・エンストすることを想定していなかった	次の2点を職員に周知し、乾燥設備の出口に掲示した ・シャッター手前で一旦停止する際はギアをニュートラルに入れて待つ ・アンダーミラーが停止線にさしかかる位置で停まる
営業車を運転中に脇見をして、駐車していた車に衝突した	訪問先を確認するため、走行しながらモバイル端末を取ろうとして、ハンドル操作を誤った	場所を調べる時は、車を停めて安全を確保した上で操作するように新聞注意した
外部業者が乾燥設備のクッカーディスクの溶接補修中に、クッカー本体内から外へ出ようとして、誤って溶接機のスイッチを入れてしまった。それにより、作業場付近に置いていたPTスプレー缶と本体間でスパークが生じ、スプレー缶が爆発・発火した	・作業効率を優先し、スプレー缶を作業場付近に置いていた ・溶接機リトーチを保温材に圧縮の上に置いていたため、誤ってスイッチが入ってしまった	外部業者に委託する作業でも、KY(危険予知)活動を実施する
リバース・マネジメントセンターから出庫する際に、左壁に接触した	右側に停まっていたリフトを意識して、左側に寄りすぎた	事故内容を周知し、注意を喚起した
2段積みしていたパレット(クレート)が風で崩れ落ち、停車していた車に当たった	・本来の保管場所ではない所にパレットを積んでいた ・台風への対策をしていなかった	・保管場所を確保するために、パレット退避手順を確立した ・強風が予想される時は、その対策を徹底する
駐車場に入庫する際、切り替えしてバックしたところ、ポールに車体左側を接触した	幅や角度をよく考えず、安易にバックをした	事故内容を周知し、注意を喚起した
乾燥設備で車両を待機させていたところ、シャッターが下りてきて接触した	誘導員がいなかったので、指示を待たずに先に進んでしまった	誘導員の指示があるまで、手前の位置で待機するよう周知した
お客様先にてコンテナを設置する際に、コンテナ後部を消火設備に接触させ破損した	雨が降っていた上め、窓を開けて目視せず、ミラー任せで設置場所を測った	ミーティングにて、事故内容と安全確認(バック時、設置、フックへのひっかけ、レール外れ)について周知した
現場をバックしたところ、電柱に接触した	近くに駐車していた軽自動車に気を取られ、安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
訪問先を探して走行中に、該当の場所であるか確認しようとバックしたところ、電柱に接触した	急いでいて後方の安全確認を怠った	外部機関にて、当事者とその職員に運転適正診断を実施した
乾燥機で現場をダンプして荷降ろしをしたところ、搬入用シャッター開口部建具に衝突した	現場の停止位置を誤った	事故内容を周知し、注意を喚起した
燃え殻をバッカンに移す作業をしていて、リフトの爪が倉庫のシャッターに接触した	倉庫内の狭いスペースで無理に作業していた	事故内容を周知し、注意を喚起した
営業車で走行中に、バイクに当て逃げされ、右側サイドミラーのランプが破損した	相手の動きが予測できなかった	事故内容を周知した
お客様先でピット清掃中に、接続で固定していた取引ホースが緩み、配管のバルブを破損した	取引ホースの固定度合が弱かった	・該当車両での作業時(ホースの固定)はシノを使って縛り、遊びのないよう固定する ・すべての取引車にシノを常備した
お客様先でリフトを使ってコンテナを移動しようとしたところ、誤ってフェンスに接触した	少しでも作業場所を広くしようと、フェンスの近くにコンテナを配置した	事故内容を周知し、注意を喚起した
10tコンテナを洗車場へ搬置する際、水道の配管に接触し破損した	後方確認を十分にせず、コンテナを後方に寄せ過ぎた	事故内容を周知し、注意を喚起した
駐車場にバックで入庫しようとして、ブレーキとアクセルを踏み間違え、後方の壁に激突した	・本人の運転能力と注意力が欠けていた ・現場にバックモニターがなかった	運転免許取得1年未満の者は、バックモニターを装備していない車両は運転しないよう周知した
グループ会社の敷地内で、バックで駐車しようとしたところ、右後方に駐車していた営業車に接触した	・左側に気をとられ、右側の確認が不十分だった ・普段乗らない車を使ったため、操作に不慣れだった	・駐車時の3点確認(バックミラー・サイドミラー・目視)を徹底する ・狭い場所に駐車する時は一度車を降りて後方確認をする(バックモニター搭載車は除く) ・普段乗らない社用車を使用する時は装置や操作方法を事前に確認する
駐車場からバックで出る際に、隣り車両が動いていることに気付かず接触した	・本人の運転能力不足 ・後方の状況をバックモニターでしか確認していなかった	外部機関にて、当事者に運転適正診断を実施、受講終了までは運転を禁じた

過去の苦情・事故

大栄 / リリーフ

苦情 3件

内　容	原　因	対　策
狭い道路でごみ収集車が作業していて、一般車両の通行を妨げていたと連絡をいただいた	急いでいたため、他の車両への配慮が不足していた	どんな状況でも一般車両を優先するように指導した
市民の方から収集後にごみが残っているとの指摘をいただいた	カウスよけネットの間にあったごみを見落としていた	収集が終わったら、ごみステーションごとに必ず最終チェックをするように指導した
市民の方から収集作業員の態度が悪いとの連絡をいただいた	停車して休憩中に、車内で煙草を吸って大きな声で話をしていた	休憩時であっても、市民のかへの配慮を忘れず、不快感を与えるような行動はしないように指導した

職病事故 0件　/　人身事故 9件

内　容	原　因	対　策
ごみを収集中に落ちていた釘を踏み、右足裏を怪我した	足元を注意していなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
収集現場に到着し、車両から降りた際に、バランスを崩し左足を捻った	不注意でバランスを崩した	身体に負担をかけず安全に降りるよう、当事者に注意を促した
家庭から荷物を運び出す時に、段差で右足を強打し異常を感じた	荷物で足元が見えなかったため段差に気付かなかった	作業前に周りの状況を確認し、危険物や障害物が無いか把握するよう指導した
重たいごみを片手で持ち上げて右手を負傷した	安全マニュアルを守らず、無理な作業をした	安全マニュアルに従って作業するように周知した
袋の底からビンの破片が突き出ていることに気付かず素手で荷物を運び、破片が足にあたって負傷した	運び出す荷物の確認が不十分であった	事故内容を周知し、注意を喚起した
積み重なった家具を上から順に2人で降ろしていたところ、その下にあった家具が崩れ落ちてきて左足親指を骨折した	危険予測と認識が不十分であった	安全靴を支給した
右折時にバック車のミラーが歩行者に接触した	安全確認を怠った	当事者に厳重注意し、全従業員に安全確認を徹底するよう指導した
2t車を積と載車の間の狭間に気がつかず左足をぶつけ、中指を骨折した	作業に集中していて足元を注意していなかった	作業環境をしっかり把握するように指導した
次のごみステーションに向かおうとして、乗りかけていた鉄板に頭を、右脚を打撲した	足元をよく見ていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した

物損事故 5件

内　容	原　因	対　策
通行を妨げていた駐車車両をかわそうとバックした際に、車両に接触した	十分な後方確認ができていなかった	駐車車両により通行が困難な時は、収集を後回しにするか、会社の指示を仰ぐように周知した
狭い道路で前から車がきたため、バックしたところ、ごみステーションの壁に激突した	慌てていて後方の確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
収集のため坂道でサイドブレーキをかけて車を降りたところ、車が動き出し、電柱に激突した	確実な事車操作を怠ったため、サイドブレーキが利いていなかった	・ごみが少ない時は運転手は車内で待機する ・坂道で停車する場合は輪留めをするように指導した
交差点を左折時に、左後方から直進してきたバイクと接触した	サイドミラーをよく確認していなかった	外部講師にて、当事者に運転適正診断を実施した
前方の停車車両に追突した	脇見運転をしていた	事故内容を周知し、注意を喚起した

大協 / ダイキョウクリーン

苦情 5件

内　容	原　因	対　策
お客様先から、収集車両が構内の制限速度（15km/h）を超過することが度々あるとの指摘をいただいた	慣れによりルールの順守が曖昧としていた	他のお客様先でも構内ルールを順守するよう注意を喚起した

職病事故 1件

内　容	原　因	対　策
排水管が完全に洗浄できておらず、汚泥の塊が構内に蓄積し、厨房内に汚水が溢れた	現場の下見が不十分であった	営業ミーティングにて下見の際の注意点を周知した

人身事故 5件

内　容	原　因	対　策
清掃のためマンホールを開けて他の作業をしている間に、マンホールを開けたことを忘れ、左足から落下し、負傷を骨折した	マンホールを開けて作業する時に掲示する作業表示板を設置していなかった	ルールを再度周知し、手順書に追記した
交差点でUターン右折した際に、直進してきた自転車と接触した	前方の注意が不十分だった	・ドライブレコーダーを用いて講師の安全講習を実施した ・手順書の読み直しをおこなった
マンホールを開けて清掃作業をしていたところ、後を通過した原付バイクのタイヤが穴の淵におち、その衝撃で運転手が手首を骨折した	短時間であることを理由に、作業表示板を設置しなかった 蓋の危険を感じた	安全マニュアルに従って作業するようあらためて周知した
ごみを収集しようと車から降りた場所に段差があり、左足首を捻挫した	足元の安全確認ができていなかった	作業前に周りの状況を確認するよう指導した
ごみ収集作業で転んだ拍子に左足首の力が抜けて転んでしまい、壁に頭をぶつけた	慣れで油断していた ・自身の体力を過信していた	収集現場の作業環境を把握すること、自身の体力を過信しないことを含め、事故内容を周知した

物損事故 8件

内　容	原　因	対　策
道幅の狭いごみステーションで車両をバックしていたところ、左後方部が門柱と接触した	右側を注視しすぎて左側の確認が遅れた	見通しが悪い場所は助手が誘導する、また、運転者は助手が指示するまで動かないように周知した
ごみを収集して走行中に、煙が出ていることに気付き、最寄りの消防署で消火した	ボンベやスプレー缶が積まれていた	中身の確認を徹底するよう周知した
バンドル操作を誤り、左側のミラーが看板と接触した	手がすべってしまった	当事者に注意を促した
ごみステーションにバックで駐車しようとしたところ、左側の安全バーが停車車両の右前に接触した	左側の安全確認が不十分だった	道幅が狭いなど道路事情が良くない場所は助手が誘導するよう指導した
不燃ごみ収集時に車両火災が発生した	ボンベやスプレー缶が積まれていた	・出火の恐れがある廃棄物は収集しない ・市民に対する分別ルールの徹底を市役所に依頼した
収集場所で車両をバック時に門に接触した	バックモニターを見ていなかった	状況が正確に把握できない時は車から降りて確認するよう指導した
一方通行の道路で、停車車両の横を通り抜けようとしたところ接触した	左側に気をとられ、右側の注意が不十分だった	事故内容を周知し、注意を喚起した
学校内の広場が道を走行中に車両が横切て、停車している車に接触した	工事中で停車車両が多かったが、大丈夫だろうと思い込んでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した

2013年度の苦情・事故

リヴァックス

苦情 0件　/　職病事故 0件　/　人身事故 3件

内　容	原　因	対　策
食車内でフレコン袋を取ろうとして、床とピット間口部の端に気付かずピットに転落し、左脇骨骨折した	以前から間口部があるのは知っていたが、フレコン袋に意識があり、足元を注意していなかった	該当箇所の穴をふさぎ、他にも同様の箇所がないかを確認した
処理施設で処天下にタンク上及び内部にて作業していたところ、黒い塊のような症状があらわれ頭痛に襲撃した	作業の進捗が遅れていたため居休憩を2時間遅くした。それにより作業時間が長くなり、十分な休憩がとれていなかった	・高温環境下で作業する時は、体温が下がるよう保冷入りベストを着用する ・作業の進捗状況に関わらず、時間通りに休憩を取るように周知した
処理施設で山積みの廃棄物を下側から選別していたところ、上から大きな廃棄物が落ちてきて小指を骨折した	作業の手間を惜らずため、廃棄物を山積みのまま選別してしまった	重量物の場合は廃棄物を立方化上で選別する

物損事故 8件

内　容	原　因	対　策
最終先の処理場で荷卸しのため車両をバックしたところ構内の柱に接触した	大丈夫だろうと思い込み、十分な後方確認ができていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
引取先にて、バックで進入し切り替えしをしたところ、助手席側後方角がシャッターレールに接触し損傷した	バック時の進入角度が通常より緩く、切り返しの際に前方に気をとられ、注意が散漫になった	事故内容を周知し、注意を喚起した
営業車を切り返してバックをした際に後方の電柱に接触した	車をバック中に足元に荷物が落ち、気をとられて注意が散漫になった	毎月1回は車内を整理するように、営業車の運転管理用簿を改訂した
処理施設の搬入場で開閉式の天蓋が開いたまま車両を発進し、手すりに接触した	天蓋の開閉確認を怠った	自動開閉の天蓋が閉まっているかを車両を降りて確認するよう社内に掲示すると共に、手順書を改訂した
駐車場で営業車を切り替えしてバックしたところ、助手席がポールと接触した	精算機に気を取られ周囲の確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
機器保管場所のシートレールがゆがみ、レールの溶接箇所が外れていた	保管場所からはみ出た廃棄物を押し込むために重機を柱の横に寄せて走行したため	シートレールに反射テープを貼り、オペレータから見えるようにした
引取先でコンテナを設置後、アームを引き上げながら走行してしまい、上部鉄骨にアームを接触させ損傷した	何度も引き取りに行ってあり、慣れから当たらないだろうと油断してしまった	事故内容を周知し、注意を喚起した
シュベルで荷降ろし中に、荷台に衝立があることに気がつかず、シュベルで廃棄物を押して衝立を倒した	衝立があることをシュベルのオペレータに伝えていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した

大栄 / リリーフ

苦情 2件

内　容	原　因	対　策
市民の方から収集コースの間違いに対する指摘をいただいた	収集コースの確認が足りなかった	関係部門で作業手順を再確認した
処理先へ持ち込んだ廃棄物に処理不可物が紛れていた	廃棄物の内容の確認が十分ではなかった	収集時に内容の確認を徹底するように指導した

職病事故 0件　/　人身事故 4件

内　容	原　因	対　策
車両から降りた際に、段差に気がつかず捻った足首を負傷した	足元の状況を把握していなかった	作業前に周りの状況をよく見て、危険物や障害物等がないかを把握するように指導した
コンテナ内のパレットを重機に積み上げる際に、パレットとパレットの間に手を挟み負傷した	フォークリフトを使用せず、手作業でおこなっていた	関係部門で作業手順を再確認した
不燃物の収集でバッカー車の回転板を回したところ、ピンが破裂し右眼の縁に当たり負傷した	シートではなく、箱で押さえていた	関係部門で作業手順を再確認した
助手を車両から降ろし、車を移動しようと発進したところ、左前輪で助手の左足を踏み打撲を負わせた	安全確認を怠り、助手が車両の近くにいることに気がいていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した

物損事故 4件

内　容	原　因	対　策
収集のため坂道でサイドブレーキをかけて車を降りたところ、車が動き出し、後方の車と接触した	確実な事車操作を怠ったため、サイドブレーキが利いていなかった	当事者に厳重注意し、全従業員に安全確認を徹底するよう指導した
対向車がセンターラインを割って走行してきたため、慌ててハンドルを切ったところ、壁に接触し反対車線に横転した	脇見のことで慌てて運転ミスをした	当事者に厳重注意し、全従業員に安全確認を徹底するよう指導した
停車している車の横を通り過ぎる際に、相手のミラーと自車の後部ドアが接触した	道幅が狭いにもかかわらず、無理な通り抜けをした	事故内容を周知し、注意を喚起した
交差点を左折するため減速し左側に寄ったところ、自車両を追い越そうとした後続のバイクと接触した	左側後方の安全確認を怠った	当事者に厳重注意し、全従業員に安全確認を徹底するよう指導した

大協 / ダイキョウクリーン

苦情 1件

内　容	原　因	対　策
原付バイクの走行者から、収集車の走行が荒くて危険を感じたとの連絡をいただいた	ドライブレコーダーで確認したところ、法定速度内だったが、バイクや歩行者に対する配慮が欠けていた	車両が大きいため相手に威圧感を与える可能性があることを、社内で改めて周知した

職病事故 0件　/　人身事故 1件

内　容	原　因	対　策
ごみステーションの壁に置かれたごみを回収し終り向いたところ、頭部を壁に打ち付け、裂傷した	スピード優先で作業していたため、周りの状況が見えていなかった	同じような危険があるごみステーションを確認し、社内で注意を喚起した

物損事故 4件

内　容	原　因	対　策
住宅団地地の狭い道を走行時に、車両の左側が軒先に接触し破損した	通常より大きい車両に乗っていたにもかかわらず、車幅と車高の確認・配慮が十分ではなかった	・道路に障害物がある時はきちんと把握する ・通常と異なる車両に乗る時は車幅と車高の確認を徹底する
停留所を出るバスに道を譲ろうと停車した車に、後ろから追突した	道路の流れが良かったため油断して前方の確認を怠った	前の車との距離を十分にとり、「一かも知れない運転」を心掛けるよう周知した
収集場所にてバックで進入中に車両と接触した	バックモニターの確認が足りなかった	見通しの悪い場所では必ず助手の誘導で動くよう周知した
交差点に進入したところ、一時不停止の車両と接触した	優先道路だったので、大丈夫だろうと思い込んでいた	天候が悪い時はいつもより慎重に運転するよう指導した

2012年度の苦情・事故

リヴァックス

苦情 0件 / 環境事故 1件

内容	原因	対策
平ボディ車で廃棄物運搬中に荷崩れを起こし、一部が落下した	積荷を十分に固定していなかった	平ボディ車の作業車件を洗い出し、問題の有無を確認すると共に、課員に注意を喚起した

人身事故 4件

内容	原因	対策
乾燥施設でホッパーのメンテナンス時に周辺に放置してある刃が稼中に刺さった	鋭い刃がある周辺でも稼していた	メンテナンス時は刃をすべて取り外し、且つ、事前にKY(危険予知)活動を実施する
廃引先にて能観ドラム(約100kg)を乗込時に腰を痛めた	コンテナにすべて乗ちうと、無理をしてドラムを横倒しにして持ち上げた	重量物は重機等を使って乗み込むよう周知し、当該廃引先にも安全注意事項に追加していただいた
乾燥施設でグラインダーで配管を切断中、回転刃が飛ばれておひざに接触し負傷した	作業足場がなく、片手でグラインダーを使用していた	無理な体勢で作業する場合は、足場を設けるように周知、且つ、外部の講習を受け安全教育を実施した
収集作業中に廃棄物の荷台に登った際、右腕を脱臼した	加齢による身体能力低下に対する意識が欠けていた	当事者に注意を促した

物損事故 13件

内容	原因	対策
持出先にてバックで進入中に、車両が壁と接触した	十分な後方確認ができていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
搬無先の駐車場で車をバックしていたところ、花壇と接触した	後方の安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
処理施設内で天蓋式コンテナを開けた時にウェブカメラに接触し破損した	早朝で施設前に人がいなかったので、駐車場所を特に意識することなく確認作業をおこなった	出発前の確認確認は指定場所でおこなうよう課員に周知した
お客様先の駐車場にて停車している車両に接触した	運転に不慣れで車の切り返しの時に焦り、且つ、ハイヒールを履いていたため、ブレーキを踏むのが遅くなった	ヒールの高い靴(3cm以上)で運転しないよう女性社員に周知した
バイオマス燃料の乗込時に車両キャビンにその塊が落下し、シート重傷を破損した	容器容量内で固まっていた燃料がほぐれず、大きな塊のまま落ちてきた	塊がある場合は容器から指定場所に出し、塊をつぶしてから積み込むよう周知した
コンテナ内の鉄を重機で圧縮していたところ、その一部が落ち、重機のフロントガラスに亀裂が生じた	コンテナの高さ以上に鉄を積んでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した
天蓋が確実に閉まっていない状態で車両を発進させ、処理施設のシャッターレールを損傷した	天蓋の確認確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
構内駐車場に進入した際に門扉支柱に衝突した	車両左側の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
荷降ろし作業のダンプアップ時に、コンテナ蓋が破損機の間いに接触した	運転手と車両誘導員の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
高速道路にてハンドル操作を誤り、中央分離帯に衝突、車両が横転した	酒酒社員で積載車両の運転経験が浅かった	経験者であっても、時間をかけて十分に教育し、力量が認められる者を従事させる
リフトで荷降ろし中にリフトのツメが廃棄先車両に接触した	リフトのツメ先の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
構内駐車場で駐車する際、停車している営業車に接触した	他の車両に気を取られ、車両右側の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
リフトで構内のパレットを整理中に、停車している車に接触した	重み上げたパレット下前が見えにくいにも関わらず、十分な確認を怠った	主任による運転指導を1ヶ月おこなった

大栄 / リリーフ

苦情 4件

内容	原因	対策
最近近辺で収集作業をしており、通行の妨害になっていたとの連絡をいただいた	急いでいたため他の車両への配慮が足りなかった	周りの状況をよく見て、車両や人の通行を妨げる作業はしないよう指導した
折りたたみコンテナを結束に扱い、周辺のブロックを破損したとの連絡をいただいた	不注意で手を滑らせてコンテナを落とした	ごみ収集後はコンテナを丁寧に折りたたみ、通行車両の妨げにならないよう元の位置に戻すように指導した
市民の方からごみ収集車が通行禁止箇所(私道)を走行していたとの連絡をいただいた	収集ルートの変更が関係者に周知できていなかった	現場へ向かう前に、収集ルートを確認するよう指導した
市民の方から収集後にごみが残っているとの指摘をいただいた	コンテナの側にあったごみを見落としていた	収集を終えた後に、再度ごみが残っていないか確認するように指導した

環境事故 0件 / 人身事故 4件

内容	原因	対策
家屋から荷物を運び出す際に、階段で手を滑らせ、落下した荷物と壁に頭部と首が挟まり負傷した	電気が止まっており家屋内が暗かったため、手を掛ける位置を誤り、バランスを崩した	暗い場所では、声を掛け合いお互いに注意し合うように指導した
客家機関の廃棄物を収集する際に、針のようなものが右手の指に刺さった	装置していた手袋が薄かった	作業員の装備品を見直した
ガラス板をパッカー車に積み込んだ際に、左腕が破損部分にあたり負傷した	安全に対する意識が欠けていた	事故内容を周知し、注意を喚起した
交差点で収集作業をしていたところ、走行してきた自転車と接触し作業員が転倒した	相手が飛び出してきて避けられなかった	交差点など通行量が多い場所では、周囲に十分注意して作業するよう指導した

物損事故 4件

内容	原因	対策
見通しが悪い曲角を左折しようとして、走行してきた自転車と接触した	安全確認を怠った	見通しが悪い場所では、必ず一旦停止をした上で、左右を確認するように指導した
車線変更の際にバイクが乗りながら衝突し、その勢いで右折車線で停止していた車両にも接触した	安全確認を怠った	・当事者に厳重注意した ・事故内容を周知し、注意を喚起した
交差点で右折した際に、走行してきた自転車と接触した	安全確認を怠った	外部機関にて、当事者に運転適正診断及びカウンセリングを実施した
ごみステーション前に停車していた車両に接触した	運転が浮かったため、助手が車の移動をお願いしている間に、運転手がごみステーションの近くまで車をつけようとした	当事者に厳重注意し、助手の誘導に従うよう指導した

過去の苦情・事故／ISO26000対照表

大協 / ダイキョウクリーン

苦情 0件 / 環境事故 0件 / 人身事故 2件

内容	原因	対策
収集車両が下校中の児童のランドセルに接触した	最徐行していたので大丈夫だろうと油断していた	通行人が多い道路は最徐行ではなく停車すること、目視できない位置は特に注意するように周知した
不燃物の収集で袋を持ち上げたところ、飛び出ていたガラス片で足を負傷した	ガラスや金属が危険な状態で混入していないか確認していなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した

物損事故 4件

内容	原因	対策
ごみステーションにバックで進入中に、違う方向から走行してきた車両と接触した	周囲の安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
坂道でサイドブレーキをかけて車を降りたところ、車が動き出し、前方の壁に衝突した	確実な停車措置を怠ったため、サイドブレーキが利いていなかった	坂道で停車する際は、サイドブレーキの確認はもちろん、輪留めをするように指導した
不燃ごみ収集時に廃棄物の車両から出火した	カセットボンベやスプレー缶が混ざっていた	中身の確認を徹底するよう周知した 市民に対する分別ルールの徹底を市役所に依頼した
左折した際にサイドガードが縁石に接触した	後方がつまっていたため、焦って急なハンドル操作をした	内輪差を意識すること、助手は敢かに目視をするように指導した

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P3~8, P23
6.3	人権	
6.3.3	デューディリジェンス	P4, P23~24
6.3.4	人権に関する危機的状況	—
6.3.5	加担の回避	P35~38
6.3.6	苦情解決	P35, P37~38
6.3.7	差別および社会的弱者	P35, P37~38
6.3.8	市民的および政治的権利	P35~38
6.3.9	経済的、社会的及び文化的権利	P35, P37~38
6.3.10	労働における基本的原則及び権利	P35, P37~38
6.4	労働慣行	
6.4.3	雇用及び雇用関係	P4, P35~38
6.4.4	労働条件及び社会的保護	P35, P37~38
6.4.5	社会対話	P23~24, P38
6.4.6	労働における安全衛生	P33~35, P38, P45~47, P50~53
6.4.7	職場における人材育成及び訓練	P33~34, P36~37
6.5	環境	
6.5.3	汚染の予防	P28~30, P49
6.5.4	持続可能な資源の利用	P28~31
6.5.5	気候変動の緩和及び気候変動への適応	P29~30, P48
6.5.6	環境保護、生物多様性、及び自然生息地の回復	—
6.6	公正な事業慣行	
6.6.3	汚職防止	—
6.6.4	責任ある政治的関与	—
6.6.5	公正な競争	P3~8
6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P3~8
6.6.7	財産権の尊重	—
6.7	消費者課題	
6.7.3	公正なマーケティング、事実に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行	P24, P39~44
6.7.5	持続可能な消費	P7~14
6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	P43~47, P50~53
6.7.7	消費者データ保護及びプライバシー	P24
6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	—
6.7.9	教育及び意識向上	P25, P39~41, P43~44,
6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	
6.8.3	コミュニティへの参画	P39~42
6.8.4	教育及び文化	P39~41
6.8.5	雇用創出及び技能開発	P38~39
6.8.6	技術の開発及び技術へのアクセス	—
6.8.7	富及び所得の創出	—
6.8.8	健康	P28~30, P49
6.8.9	社会的投資	P39~42

グッドホールディングス株式会社

お問い合わせ先

CSR推進室
〒662-0918　兵庫県西宮市六湛寺町14-5 太陽生命西宮ビル3階
TEL: 0798-47-7704
E-mail: csr@goodhd.co.jp

FSC ミックス 責任ある森林資源を使用しています FSC® C000000

Carbon Offset for 860 g-CO2/copy W02 Waterless Printing. Naturally.

1部あたり 860g CO2 CR-DD01-16011